

令和2年度 自己点検・評価書

- 「部局等における自己点検・評価書作成の実質化と効率化（平成29年7月25日評価室作成）」及び「教教分離後の評価に関する基本的な考え方について」を踏まえ、教育研究活動の質の保証（維持・向上）の着実な取組及び、各部局の評価作業の負担軽減を目的として、様式イメージを例示したものです。部局の実状に応じて様式は適宜調整してください。
- 部局での自己点検・評価にそぐわない分析項目は灰色網掛けとしていますので、対応不要です。
- 「【参考】想定される根拠資料」は、あくまで参考としての提示ですので、部局独自の資料がある場合は適宜記載してください。

令和3年12月

佐賀大学

教育学部・学校教育学研究科

1 現況及び特徴

本学部では、「ミッションの再定義」や「今後の国立大学の機能強化に向けての考え方」等を踏まえ、文化教育学部の3つの新課程を廃止し、学校教育課程に特化して教員養成機能を強化することとし、令和2（2020）年度で5年目を迎え、2回目の卒業生を送り出した。

現在、教育学部は、一つの課程（学校教育課程）で構成されている。下表に、学校教育課程の二つのコースごとに、入学定員を示す。

教育学部（120名）				
コース	【幼小連携教育コース】（25）		【小中連携教育コース】（95）	
専攻	幼小発達教育 専攻（15）	特別支援教育 専攻（10）	初等教育主免 専攻（70）	中等教育主免 専攻（25）

2 目的

【教育学部】

（佐賀大学教育学部規則第2条、2020（令和2）年度履修の手引き p2）

本学部は、学校教育課程幼小連携教育コース及び小中連携教育コースにより構成し、幼児・児童・生徒の心身の発達を長期的かつ連続的な視点から見据えながら、現代社会の変化に伴う様々な教育課題に応えることができる学校教員の養成を目的とする。

そのために本学部では、教育者たりうるための確かな学力の形成を主眼として、とりわけ小学校段階での英語教育の充実、科学的思考力の育成、人権尊重の視座に基づく社会観察力、ICT（情報通信技術）を利活用した教育などに重点を置いて、地域における複雑で多様な教育課題に的確に対応できる高度な指導力を身につけた教員養成を行う。

本学部の特質は、幼児教育と小学校教育や特別支援教育、及び小学校教育と中学校教育のあいだの円滑で有機的な連携・接続のあり方を探究・開発するコース編成にあることから、幼児・児童・生徒において、各教育段階のあいだで断絶や隔差の無い「スムーズな学び」を実現しうる教育手法を考案し実践できる教員を養成する。

[各コースの目的]

（佐賀大学教育学部規則第3条、2020（令和2）年度履修の手引き p2）

（1）幼小連携教育コース

現在の家庭・学校・地域が抱える教育的課題の解決を視野に入れつつ、子どもの生活・発達・学習について、教育学や心理学、幼児教育、特別支援教育などの観点から専門的な知識や技能を学び、幼児期から児童期にかけての子どもたちの心身の発達や学びを支えるための教育能力を持った教員養成を行うことを教育目的とする。

（2）小中連携教育コース

小学校から中学校までの義務教育9年間における児童・生徒の心身の発達過程の特性に応じた教育の系統性を理解し、各教科の本質や意義、教育内容、学習指導方法について造詣を深め、実践的な指導技術を身につけた教員養成を行うことを教育目的とする。

【大学院学校教育学研究科】

(佐賀大学大学院学校教育学研究科規則第2条)

研究科は、学校教育現場の諸課題に対応し、課題を解決できるような「理論と実践の往還」による高度な専門性と実践的な指導力を備えた教員を養成することを目的とする。

(佐賀大学大学院学校教育学研究科履修案内 p1)

学校教育学研究科は、学力問題や特別支援教育、いじめや不登校の問題など多様な教育ニーズ及び新たな学校づくりという地域の教育課題に対応するために、中心的な役割を担う高度な専門性と実践的指導力を備えた教員を養成することを使命とする。そのため、学部卒業生等（一般学生）に関しては、学校課題を明確に把握しながら即戦力として活躍できる力を培うとともに、将来的に地域の学校改革の担い手となり得る高度職業人養成を、現職教員等については、現在の地域教育課題に応じた学校改革を担うリーダー養成を、それぞれ目的とし、特色あるコースを設けている。

それぞれのコースにおける目的は次のとおりとする。

(佐賀大学大学院学校教育学研究科規則第3条)

研究科に、教育実践探専攻および3つのコースがある。

[各コースの目的]

(1) 授業実践探究コース

(佐賀大学大学院学校教育学研究科規則第3条)

現代的な学力育成の課題に応じて、授業実践において、学習指導に関する高度な資質を育成することを目的とする。

(佐賀大学大学院学校教育学研究科履修案内 p1)

地域教育の課題としての「学力向上」に応じて、以下の4つの資質能力を育成し、学校教育の改革・発展に向けて新たな取り組みを行うことができる教員を養成することを目的とします。

- ① 学力と教育課程、授業構成、学習評価についての理論的な知識
- ② 学力と教育課程、授業構成、学習評価についての実践的な能力
- ③ 学力育成について課題を明らかにし、学び続ける意欲と態度
- ④ 多様な教育ニーズへの対応、及び学校・学級経営に関する基本的な知識

(2) 子ども支援探究コース

(佐賀大学大学院学校教育学研究科規則第3条)

特別支援教育や生徒指導・教育相談等の多様な教育ニーズに応じて、さまざまな場面において、きめ細かに子どもを指導する高度な資質を育成することを目的とする。

(佐賀大学大学院学校教育学研究科履修案内 p1)

地域教育の課題としての「不登校、いじめ問題への対応、特別支援教育の充実」に応じて、生徒指導・教育相談系、特別支援教育系の2つをおき、以下の4つの資質能力を育成し、学校教育の改革・発展に向けて新たな取り組みを行うことができる教員を養成することを目的とします。

- ① 生徒指導， 教育相談， 特別支援教育についての理論的な知識
- ② 生徒指導， 教育相談， 特別支援教育についての実践的な能力
- ③ 多様な教育ニーズへの対応について課題を明らかにし， 学び続ける意欲と態度
- ④ 学力育成， 及び学校・学級経営に関する基本的な知識

(3) 教育経営探究コース

(佐賀大学大学院学校教育学研究科規則第3条)

地域社会の変貌や少子化等の社会的課題に応じて、地域と連携した学校経営において、高度な資質を育成することを目的とする。

(佐賀大学大学院学校教育学研究科履修案内 p1)

地域教育の課題としての「地域の課題や子どもたちの実情に応じた新しい学校づくり」に応じて、以下の4つの資質能力を育成し、学校教育の改革・発展に向けて新たな取り組みを行うことができる教員を養成することを目的とします。

- ① 地域と学校の連携， 学校経営， 学級経営についての理論的な知識
- ② 地域と学校の連携， 学校経営， 学級経営についての実践的な能力
- ③ 新しい学校づくりについて課題を明らかにし， 学び続ける意欲と態度
- ④ 学力育成， 及び多様な教育ニーズへの対応に関する基本的な知識

3 特徴

【教育学部】

(<http://www.saga-u.ac.jp/school/kyouiku/index.html>)

教育は、次世代を担う子どもたちの育成、すなわち、未来を創造することである。

「学びの連携」で一貫的な教育を目指している。

佐賀大学教育学部の特徴の一つは、「学びの連携」を重視していることである。教育学部の「幼小連携教育コース」「小中連携教育コース」の双方とも、複数の学校種が連携する教育や、小学校高学年の教科担任制に対応して、幼児期から児童期へ、児童期から青年期へと成長していく子どもたちの発達を一貫的で連続性のある学びとして捉えることのできる教員の養成を目指している。

また、これからの時代に求められる高度な指導力の育成を重視していることも特徴である。確かな学力の形成、小学校段階での英語教育の充実、科学的思考力の育成、ICTを利活用した教育の充実などに対応できる教員の養成を目指している。

【大学院学校教育学研究科】

(<http://www.saga-u.ac.jp/school/kyouiku/daigakuin.html>)

学校改革の担い手となる高度な力量を有する実践的な教員を養成

近年、学校教育の分野では学力問題、いじめや不登校、特別なニーズのある児童生徒への対応、保護者や地域との連携など、様々な教育課題が生じており、それらの課題に対応できる高度な力量と豊かな資質のある教員が求められている。こうした高度専門職業人養成に特化した教員養成を行うことを目的とし、次のような教員養成を目指す。

1. 学部卒業者を対象に実践的指導力を備え、将来性ある即戦力となり得る新入教員の養成
2. 現職教員を対象に、地域や学校における指導的役割を果たし得るリーダー教員の養成

カリキュラムは実践的指導力の育成を目標に「理論と実践の往還」「課題探究」を原理として、理論研究や事例研究などの大学院での学修と探求実習等の活動的方法によって展開される。

研究者教員と実務家教員とが共同して、時代に対応した高度な実践力とリーダーシップを発揮できる、実践的な教員養成を行う。

Ⅲ－Ⅰ 教育に関する状況と自己評価（大学機関別認証評価の評価基準（分析項目）に基づき、自己点検・評価を行う。）

領域1 教育研究上の基本組織に関する基準

基準1－1 教育研究上の基本組織が、大学等の目的に照らして適切に構成されていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[1-1-1] 学部及びその学科並びに研究科及びその専攻の構成（学部、学科以外の基本的組織を設置している場合は、その構成）が、大学及びそれぞれの組織の目的を達成する上で適切なものとなっていること	1. 組織（令和2年度学生便覧 p9） 2. 学部（佐賀大学基本規則第17条、令和2年度学生便覧 p68） 3. 大学院（佐賀大学基本規則第18条、令和2年度学生便覧 p68） 【教育学部】 4. 入学定員及び収容定員（佐賀大学学則第3条の2、令和2年度学生便覧 p74） 5. コース及び専攻（佐賀大学教育学部規則第2～4条） 6. 入学定員及び収容定員（佐賀大学大学院学則第6条、令和2年度学生便覧 p87） 【学校教育学研究科】 7. 佐賀大学大学院学則第3条（研究科）、第4条第6項（課程）、令和2年度学生便覧 p86 8. 専攻及びコース（佐賀大学大学院学校教育学研究科規則第3条）	・学部・研究科規則 ・基本計画書	■適切である □改善を要する点がある
<p>（自由記載欄） ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準1－2 教育研究活動等の展開に必要な教員が適切に配置されていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[1-2-1] 大学設置基準等各設置基準に照らして、必要な人数の教員を配置していること	1. 認証評価共通基礎データ様式 ※佐賀大学教員人事の方針	・認証評価共通基礎データ（様式1）	■適切である □改善を要する点がある

[1-2-2] 教員の年齢及び性別の構成が、著しく偏っていないこと	1. 教員の年齢別・性別内訳	・ (別紙様式 1-2-2) 教員の年齢別・性別内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
(自由記載欄) ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
教員の年齢構成において、高齢層と若年層との均衡を図る必要がある。 若年層の充実に留意して、人事計画を作成している。	人事計画に基づき、法人に申請している。	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準 1-3 教育研究活動等を展開する上で、必要な運営体制が適切に整備され機能していること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[1-3-1] 教員の組織的な役割分担の下で、教育研究に係る責任の所在が明確になっていること	▼教員組織と教育組織の対応表 ▼組織体制が確認できる規定類、責任体制が確認できる規定類 【教育学部・学校教育学研究科】 1. 教育学部教授会で投票によって選出される各種委員等に関する申合せ 2. 佐賀大学教育学部に置く委員会等に関する規程及び別紙様式 1 ((第 2 条 (設置)、第 7 条 (専門委員会等)、第 9 条 (会議及びワーキンググループ等の設置)) 3. 佐賀大学教育学部教職課程運営委員会規程 (第 2 条 (目的)、第 3 条 (業務)、第 6 条 (各教科等専門委員会)、第 7 条 (教職科目専門委員会)) ▼責任者の氏名が分かる資料 【教育学部・学校教育学研究科】 1. 令和 2 年度教育学部教授会・研究科委員会名簿 2. 令和 2 年度教育学部各種委員会名簿	・ (別紙様式 1-3-1) 教員組織と教育組織の対応表 ・ 国立大学法人佐賀大学基本規則 ・ 責任者の氏名が分かる資料	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある

<p>[1-3-2] 教授会等が、教育活動に係る重要事項を審議するための必要な活動を行っていること</p>	<p>▼教授会等の組織構成図、運営規定等</p> <p>【教育学部】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 佐賀大学教育学部教授会規程第3条（審議事項(3)(4)） 2. 令和2年度教授会開催回数 <p>【学校教育学研究科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 佐賀大学大学院学校教育学研究科委員会規程第3条（審議事項(3)(4)） 4. 佐賀大学大学院学校教育学研究科運営委員会規程第2条（任務(3)～(7)） <p>【教育学部・学校教育学研究科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 教授会及び研究科（運営）委員会の規程上の開催頻度と前年度における開催実績一覧 	<ul style="list-style-type: none"> ・(別紙様式 1-3-2) 規定上の開催頻度と前年度における開催実績一覧 ・各学部教授会規則 ・各研究科委員会規則 	<p>■適切である</p> <p><input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>
<p>[1-3-3] 全学的見地から、学長若しくは副学長の下で教育研究活動について審議し又は実施する組織が機能していること</p>			<p><input type="checkbox"/>適切である</p> <p><input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>
<p>(自由記載欄)</p> <p>※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p> <p>特になし</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

領域2 内部質保証に関する基準

基準2-1 【重点評価項目】内部質保証に係る体制が明確に規定されていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[2-1-1] 大学等の教育研究活動等の質及び学生の学習成果の水準について、継続的に維持、向上を図ることを目的とした全学的な体制（以下、「機関別内部質保証体制」という。）を整備していること			<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[2-1-2] それぞれの教育研究上の基本組織が、教育課程について責任をもつように質保証の体制が整備されていること	▼教育研究上の基本組織一覧 【教育学部】 1. 佐賀大学教育学部教職課程運営委員会規程第2条（目的）、第3条（業務）、第4条（組織）	<ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式2-1-2）教育研究上の基本組織一覧 ・ 佐賀大学における質保証の体制及び自己点検・評価の手順に関する細則 ・ 佐賀大学教育コーディネーター制度実施規程 ・ 佐賀大学教育コーディネーター会議内規 	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[2-1-3] 施設及び設備、学生支援並びに学生の受入に関して質保証について責任をもつ体制を整備していること	▼質保証について責任をもつ体制への構成員等の一覧 【教育学部】 1. 佐賀大学教育学部に置く委員会等に関する規程別紙様式1（教務委員会任務（審議事項等）） 2. 佐賀大学教育学部に置く委員会等に関する規程別紙様式1（学生・就職委員会任務（審議事項等）） 3. 佐賀大学教育学部に置く委員会等に関する規程別紙様式1（FD委員会任務（審議事項等）） 4. 佐賀大学教育学部に置く委員会等に関する規程別紙様式1（入試・広報委員会任務（審議事項等）） 5. 佐賀大学教育学部に置く委員会等に関する規程別紙様式1（施設・安全衛生委員会任務（審議事項等））	<ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式2-1-3）質保証について責任をもつ体制への構成員等の一覧 ・ 佐賀大学における質保証の体制及び自己点検・評価の手順に関する細則 	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
（自由記載欄） ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。 特になし			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準 2-2 【重点評価項目】 内部質保証のための手順が明確に規定されていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[2-2-1] それぞれの教育課程について、以下の事項を機関別内部質保証体制が確認する手順を有していること (1) 学位授与方針が大学等の目的に則して定められていること (2) 教育課程方針が大学等の目的及び学位授与方針と整合性をもって定められていること (3) 学習成果の達成が授与する学位に相応しい水準になっていること			<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある

<p>[2-2-2] 教育課程ごとの点検・評価において、領域6の各基準に照らした判断を行うことが定められていること</p>	<p>▼教育課程における評価の内容を規定する規定類一覧</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 佐賀大学学士課程における教育の質保証に関する方針 2. 佐賀大学学士課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン 3. シラバスの点検及び改善に関する要項及び点検表 <p>【教育学部】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 佐賀大学教育学部における教育課程点検・改善実施要項 5. PDCAサイクル 6. 佐賀大学教育学部企画・評価委員会規程第2条（任務） <p>【学校教育学研究科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 佐賀大学大学院課程における教育の質保証に関する方針 8. 佐賀大学大学院課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン 9. 佐賀大学大学院学校教育学研究科教育評価システム規程（R2.7.1改正） 	<ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式2-2-2）教育課程における評価の内容を規定する規定類一覧 ・ 佐賀大学学士課程における教育の質保証に関する方針 ・ 佐賀大学学士課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン ・ 佐賀大学大学院課程における教育の質保証に関する方針 ・ 佐賀大学大学院課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン ・ 各教育課程における教育課程点検・改善実施要項 ・ 佐賀大学教育コーディネーター制度実施規程 	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>
<p>[2-2-3] 施設及び設備、学生支援、学生の受入に関して行う自己点検・評価の方法が明確に定められていること</p>	<p>▼自己点検・評価の実施時期、評価方法を規定する規定類一覧（別紙様式2-2-3）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式2-2-3）自己点検・評価の実施時期、評価方法を規定する規定類一覧 ・ 佐賀大学における質保証の体制及び自己点検・評価の手順に関する細則 	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>

<p>[2-2-4] 機関別内部質保証体制において、関係者（学生、卒業（修了）生、卒業（修了）生の主な雇用者等）から意見を聴取する仕組みを設けていること</p>	<p>▼意見聴取の実施時期、内容等一覧（別紙様式2-2-4）</p> <p>「分析項目Ⅱ 教育成果の状況」参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式2-2-4）意見聴取の実施時期、内容等一覧 ・佐賀大学学生による授業評価実施要項 ・佐賀大学の卒業生又は修了生を対象としたアンケート実施要領 ・佐賀大学の卒業生又は修了生が就職した企業等を対象とするアンケート実施要領 	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>
<p>[2-2-5] 機関別内部質保証体制において共有、確認された自己点検・評価結果（設置計画履行状況等調査において付される意見等、監事、会計監査人からの意見、外部者による意見及び当該自己点検・評価をもとに受審した第三者評価の結果を含む。）を踏まえた対応措置について検討、立案、提案する手順が定められていること</p>	<p>▼検討、立案、提案の責任主体一覧（別紙様式2-2-5）</p> <p>【教育学部】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 佐賀大学教育学部における教育課程点検・改善実施要項 2. PDCAサイクル <p>【学校教育学研究科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 佐賀大学大学院課程における教育の質保証に関する方針 2. 佐賀大学大学院課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン 3. 佐賀大学大学院学校教育学研究科教育評価システム規程（R2.7.1改正） 	<ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式2-2-5）検討、立案、提案の責任主体一覧 ・佐賀大学大学評価の実施に関する規則 ・佐賀大学学士課程における教育の質保証に関する方針 ・佐賀大学学士課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン ・佐賀大学大学院課程における教育の質保証に関する方針 ・佐賀大学大学院課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン ・各学部における教育課程点検・改善実施要項 ・佐賀大学教育コーディネーター制度実施規程 	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>

<p>[2-2-6] 機関別内部質保証体制において承認された計画を実施する手順が定められていること</p>	<p>▼実施の責任主体一覧（別紙様式2-2-6）</p> <p>なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式2-2-6）実施の責任主体一覧 ・佐賀大学学士課程における教育の質保証に関する方針 ・佐賀大学学士課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン ・佐賀大学大学院課程における教育の質保証に関する方針 ・佐賀大学大学院課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン ・佐賀大学教育コーディネーター制度実施規程 	<p><input type="checkbox"/>適切である</p> <p><input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>
<p>[2-2-7] 機関別内部質保証体制において、その決定した計画の進捗を確認するとともに、その進捗状況に応じた必要な対処方法について決定する手順が定められていること</p>	<p>なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自律的な自己点検・評価の実施及び点検・評価結果を活用したマネジメントサイクルに関する方針 ・佐賀大学学士課程における教育の質保証に関する方針 ・佐賀大学大学院課程における教育の質保証に関する方針 	<p><input type="checkbox"/>適切である</p> <p><input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>
<p>（自由記載欄） ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p> <p>特になし</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準 2-3 【重点評価項目】 内部質保証が有効に機能していること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
<p>[2-3-1] 自己点検・評価の結果（設置計画履行状況等調査において付される意見等、監事、会計監査人からの意見、外部者による意見及び当該自己点検・評価をもとに受審した第三者評価の結果を含む）を踏まえて決定された対応措置の実施計画に対して、計画された取組が成果をあげていること、又は計画された取組の進捗が確認されていること、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されていること</p>	<p>▼該当する報告書等 1. 国立大学法人佐賀大学部局等評価検証結果報告書</p> <p>【教育学部】 改善すべき点等一覧</p> <p>【学校教育学研究科】 改善すべき点等一覧</p>	<p>・（別紙様式 2-3-1）計画等の進捗状況一覧</p>	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>
<p>[2-3-2] 機関別内部質保証体制のなかで、点検に必要な情報を体系的、継続的に収集、分析する取組を組織的に行っており、その取組が効果的に機能していること（より望ましい取組として分析）</p>	<p>▼部局の自己点検・評価書</p> <p>1. 国立大学法人佐賀大学部局等評価検証結果報告書</p> <p>【教育学部・学校教育学研究科】 2. 自己点検評価書（毎年度） 3. 個人評価報告書（毎年度）</p>	<p>・国立大学法人佐賀大学大学評価の実施に関する規則</p> <p>・部局の自己点検・評価書</p>	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>
<p>[2-3-3] 機関別内部質保証体制のなかで、学生・卒業生を含む関係者からの意見を体系的、継続的に収集、分析する取組を組織的に行っており、その意見を反映した取組を行っていること（より望ましい取組として分析）</p>	<p>1. 佐賀大学教育学部に置く委員会等に関する規程別表様式 1 学生・就職委員会任務（審議事項等）</p> <p>▼該当する報告書等 【教育学部・学校教育学研究科】 2. 授業アンケート・共通アンケート（毎年度）</p>	<p>・学生、卒業生就職先アンケート等</p>	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>
<p>[2-3-4] 質保証を行うに相応しい第三者による検証、助言を受け、内部質保証に対する社会的信頼が一層向上している状況にあること（より望ましい取組として分析）</p>	<p>【教育学部】 1. 佐賀大学教育学部に置く委員会等に関する規程別表様式 1 学部長室会議・学部運営会議（任務（審議事項等））</p> <p>【学校教育学研究科】 1. 佐賀大学大学院学校教育学研究科（教職大学院）運営協議会規程</p> <p>▼該当する第三者による検証等の報告書 【教育学部】 1. 令和2年度佐賀大学教育学部自己評価・点検報告書</p> <p>【学校教育学研究科】 1. 佐賀大学大学院学校教育学研究</p>	<p>・外部評価結果（JABEE、教職大学院認証評価、医学教育分野別認証評価など第三者評価が該当）</p>	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>

	科教育実践探究専攻自己評価書		
<p>(自由記載欄) ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p> <p>特になし</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準 2-4 教育研究上の基本組織の新設や変更等重要な見直しを行うにあたり、大学としての適切性等に関する検証が行われる仕組みを有していること

該当なし

基準 2-5 組織的に、教員の質及び教育研究活動を支援又は補助する者の質を確保し、さらにその維持、向上を図っていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
<p>[2-5-1] 教員の採用及び昇格等に当たって、教育上、研究上又は実務上の知識、能力及び実績に関する判断の方法等を明確に定め、実際にその方法によって採用、昇格させていること</p>	<p>【教育学部・学校教育学研究科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員の採用・昇任の状況（過去5年分） 2. 3. 教員採用昇進リスト 3. 令和2年度個人評価様式2, 3 <p>▼学士課程における教育上の指導能力に関する評価の実施状況が確認できる資料</p> <p>【教育学部】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上位昇給区分の判定表（様式1） 2. 勤勉手当の成績優秀者の判定表（様式2） <p>▼専門職学位課程における教育上の指導能力に関する評価の実施状況が確認できる資料</p> <p>【学校教育学研究科】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(別紙様式 2-5-1) 教員の採用・昇任の状況 ・国立大学法人佐賀大学教員選考規則 ・各学部・研究科で定められた選考基準等 	<p>■適切である</p> <p><input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>

	<p>1. 佐賀大学大学院学校教育学研究科教員選考規程 2. 佐賀大学大学院学校教育学研究科教員選考基準</p>		
<p>[2-5-2] 教員の教育活動、研究活動及びその他の活動に関する評価を継続的に実施していること</p>	<p>▼教員業績評価の実施状況（別紙様式2-5-2） 【教育学部・学校教育学研究科】 1. 佐賀大学学生による授業評価実施要項 2. 佐賀大学学生による授業評価結果を用いた授業改善実施要項 3. 佐賀大学教育学部・学校教育学研究科FD委員会規程第3条（業務） 【教育学部】 1. 佐賀大学教育学部における教員の個人評価に関する実施基準 2. 教育学部教員の人事評価に関する申合せ 3. 佐賀大学教育学部企画・評価委員会規程第2条（任務） 4. 佐賀大学教育学部教職課程運営委員会規程第3条（業務(2)） 5. 年俸制教員の業績評価に関する実施要項 6. 年俸制教員の業績評価に関する審査方法及び審査基準 7. 年俸制教員の業績評価判定表 8. 年俸制教員の活動実績報告書 ▼教員の業績評価の内容、実施方法、実施状況が確認できる資料（実施要項、業績評価結果の報告書等） 【教育学部・学校教育学研究科】 1. 令和2年度個人評価様式2及び3 2. 令和2年度教員個人評価の集計・分析報告書</p>	<p>・（別紙様式2-5-2）教員業績評価の実施状況 ・国立大学法人佐賀大学における職員の個人評価に関する実施基準 ・各学部における個人評価に関する実施基準</p>	<p>■適切である □改善を要する点がある</p>
<p>[2-5-3] 評価の結果、把握された事項に対して評価の目的に則した取組を行っていること</p>	<p>【教育学部】 1. 佐賀大学教育学部教員選考規程(28.4.1) 2. 佐賀大学教育学部における教員の人事評価に関する実施要項 3. 佐賀大学教育学部における教員の人事評価に関する審査領域ごとの審査項目など 4. 教育学部教員の人事評価に関する</p>	<p>・（別紙様式2-5-3）評価結果に基づく取組 ・個人評価集計・分析</p>	<p>■適切である □改善を要する点がある</p>

	<p>る申合せ</p> <p>▼評価結果に基づく取組（別紙様式2-5-3）</p> <p>【教育学部・学校教育学研究科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和2年度教員個人評価の集計・分析報告書 <p>【教育学部】</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 上位昇給区分の判定表（様式1） 3. 勤勉手当の成績優秀者の判定表（様式2） 		
<p>[2-5-4]</p> <p>授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント（FD）を組織的に実施していること</p>	<p>【教育学部・学校教育学研究科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 佐賀大学教育学部・学校教育学研究科FD委員会規程 <p>▼FDの内容・方法及び実施状況一覧（別紙様式2-5-4）</p> <p>【教育学部・学校教育学研究科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学部FD研修開催履歴 2. ティーチング・ポートフォリオ（TP）に関するワークショップ（TPWS）の参加人数 <p>【教育学部】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 「佐賀大学簡易版ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ開催のご案内」 4. ティーチング・ポートフォリオ（標準版）受講率 5. ティーチング・ポートフォリオを基にした教育改善に関する調査（R2.2.7） 6. シラバス点検報告（教育学部） 7. シラバス点検報告（文化教育学部） 	<p>・（別紙様式2-5-4）FDの内容・方法及び実施状況一覧</p>	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>
<p>[2-5-5]</p> <p>教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、それらが適切に活用されていること</p>	<p>▼教務関係等事務組織図及び事務職員の事務分掌、配置状況が確認できる資料</p> <p>【教育学部・学校教育学研究科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 佐賀大学教育学部事務分掌規程（第2条（所掌事務（1）（3）（5）（12）（24）（25）～（28））） <p>▼教育支援者、教育補助者一覧（別紙様式2-5-5）</p>	<p>・（別紙様式2-5-5）教育支援者、教育補助者一覧</p>	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>
<p>[2-5-6]</p> <p>教育支援者、教育補助者が教育活動を展開するために必要な職員の担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施していること</p>	<p>▼教育支援者等に対する研修等内容・方法及び実施状況一覧（別紙様式2-5-6）</p> <p>【教育学部・学校教育学研究科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和2年度ティーチング・アシスタント（TA）実施報告書 2. 令和2年度各科目ティーチング・アシスタント（TA）実施報告書 	<p>・（別紙様式2-5-6）教育支援者等に対する研修等内容・方法及び実施状況一覧</p> <p>・TA報告書</p>	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>

	<p>▼T A等の教育補助者に対してのマニュアルや研修等内容、実施状況が確認できる資料</p> <p>【教育学部】</p> <p>3. 教育支援者等に対する研修等内容・方法及び実施状況一覧</p>		
--	--	--	--

(自由記載欄)

※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。

特になし

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

領域3 財務運営、管理運営及び情報の公表に関する基準

該当なし

領域4 施設及び設備並びに学生支援に関する基準

基準4-1 教育研究組織及び教育課程に対応した施設及び設備が整備され、有効に活用されていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[4-1-1] 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備を法令に基づき整備していること			<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[4-1-2] 法令が定める実習施設等が設置されていること	【教育学部・学校教育学研究科】 附属学校園4校（附属幼稚園・附属特別支援学校・附属小学校・附属中学校がある。		<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[4-1-3] 施設・設備における安全性について、配慮していること	【教育学部・学校教育学研究科】 1. 建物配置図（平成30年度学生便覧p160-164） 2. 佐賀大学教育学部・大学院学校教育学研究科施設・安全衛生管理規程第3条（審議事項） 3. 危機管理マニュアル 4. 災害対策マニュアル 5. 防犯カメラ設置箇所一覧（令和元年度から変更なし） 6. 実験 実習における安全のてびき 7. 学生教育研究災害傷害保険（令和2年度学生便覧p25）		<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[4-1-4] 教育研究活動を展開する上で必要なICT環境を整備し、それが有効に活用されていること			<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[4-1-5] 大学組織の一部としての図書館において、教育研究上必要な資料を利用可能な状態に整備し、有効に活用されていること			<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[4-1-6] 自習室、グループ討議室、情報機器室、教室・教育設備等の授業時間外使用等による自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されていること	【教育学部】 1. 建物配置図等（令和2年度履修の手引き p169～172） 2. アクティブラーニング用教室の整備計画 3. アクティブラーニング教室設置数（可動式机・椅子の教室数）（令和2年8月から変更なし）	・（別紙様式4-1-6） 自主的学習環境整備状況一覧	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
<p>（自由記載欄） ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p> <p>【学校教育学研究科】 連携協力校については、佐賀県教育委員会に加え、佐賀市教育委員会とも密接な連携協力体制を構築し、佐賀市立全小中学校（小学校35校・中学校18校）、佐賀県立高等学校（3校）、附属学校園（4校園）</p>			

の計 60 校を確保している。

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準 4-2 学生に対して、生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が行われていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[4-2-1] 学生の生活、健康、就職等進路に関する相談・助言体制及び各種ハラスメント等に関する相談・助言体制を整備していること	▼相談・助言体制等一覧（別紙様式 4-2-1） 1. 佐賀大学学生センターHP 2. 生活支援制度 3. <本庄キャンパス>学生センターの配置図及業務（令和2年度学生便覧p13） 4. 進路（就職・進学等）（相談窓口・キャリアセンターホームページの利用方法等）（令和2年度学生便覧p29～36） 5. なんでも相談（令和2年度学生便覧p46～47） 6. 保健管理センター（令和2年度学生便覧p48～49） 7. ホームページの利用方法（令和2年度学生便覧p20～23） 8. 学生関係諸手続一覧等（令和2年度学生便覧p14～16） 9. 教育学部学生・就職委員会規定 ▼生活支援制度の学生への周知方法が確認できる資料 【教育学部】 1. 令和2年度新入生オリエンテーションに関する資料 【学校教育学研究科】 1. 令和2年度新入生オリエンテーションに関する資料 ▼生活支援制度の利用実績が確認	・（別紙様式 4-2-1）相談・助言体制等一覧 ・国立大学法人佐賀大学学生支援室設置規則 ・国立大学法人佐賀大学学生支援室運営規程 ・国立大学法人佐賀大学キャリアセンター規則 ・佐賀大学保健管理センター規則 ・国立大学法人佐賀大学メンタルヘルス等相談窓口設置規程	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある

	できる資料		
[4-2-2] 学生の部活動や自治会活動等の課外活動が円滑に行われるよう、必要な支援を行っていること	課外活動（令和2年学生便覧 p40～43） 課外活動に係る支援状況一覧（↓自由記載欄参照）	<ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式 4-2-2）課外活動に係る支援状況一覧 ・学生団体設置一覧 	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[4-2-3] 留学生への生活支援等を行う体制を整備し、必要に応じて生活支援等を行っていること	留学生チューター一覧	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生への生活支援の内容及び実施体制 ・外国人留学生ガイドブック 2021 ・佐賀大学国際交流会館規程 ・留学生チューター一覧 	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[4-2-4] 障害のある学生その他特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を行う体制を整備し、必要に応じて生活支援等を行っていること	障害のある学生等に対する生活支援の内容及び実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式 4-2-4）障害のある学生等に対する生活支援の内容及び実施体制 	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある

<p>[4-2-5] 学生に対する経済面での援助を行っていること</p>	<p>経済的支援の整備状況、利用実績一覧</p> <p>【教育学部・学校教育学研究科】</p> <p>1. 経済援助（授業料の免除、奨学金制度）（令和2年学生便覧 p38）</p> <p>2. 住居（学生寮、アパート等の紹介）（令和2年学生便覧 p38）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(別紙様式 4-2-5) 経済的支援の整備状況、利用実績一覧 ・佐賀大学入学料及び授業料免除等規程 ・佐賀大学入学料及び授業料免除選考基準 ・佐賀大学かささぎ奨学金実施規程 ・古賀常次郎記念奨学金の要項 	<p>■適切である</p> <p><input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>
--	---	--	---

(自由記載欄)

※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。

[4-2-3] 留学生への生活支援等

一定の専門性や経験も重要で、特定の教員団(例えば言語社会系の教員等)に依頼が向く傾向があるが、様々な対応を実施している。(大学生活、日常生活、学習面の様子、日本語の勉強、会話練習(日本語会話が十分でない)、発表に際して資料作成の個別指導、日本に関する文化を知りたいという要望への対応、進路相談など)

教員は、佐賀大学の下記の多くのクラブ等の部長・監督・顧問あるいはコーチ等を引き受けている。佐賀大学関係では、バスケットボール部、ラグビー部、スキー部、サッカー部、女子サッカー部、水泳部、女子バレーボール部、男子バレーボール部、ソフトテニス部、ソフトボール部、演劇部、佐賀大学管弦楽団、クラシックギターハーモニー、また、佐賀大学以外関係でも地域貢献として、佐賀大学ユニキッズ少年スクール、ボランティアサークルわーるどりんぐ、発達障害児の運動教室(ウルトラマンクラブ)計10回:運動教室代表、学生ボランティア Kodomo 2.0、佐賀県学生献血推進協議会(ちっち)、教育ボランティアサークル「ぞうさんのWa」、よさこいサークル「嵐舞」、などがある。

教員は、個人レベルでの社会人、障害者などの指導などを継続的に行っている例が少なくない。個人レベルでの主体的活動であると考えられるため、意識しておかなければ、十分に把握する機会を逸し、業務負担が過大になってしまう可能性に留意する必要がある。(例)ハラスメントの相談、履修困難学生の支援、引きこもりがちな学生への支援(ソーシャルワーカーとの協働)など。

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

領域5 学生の受入に関する基準

基準5-1 学生受入方針が明確に定められていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[5-1-1] 学生受入方針において、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方を明示していること	【教育学部】 1. 教育学部入学者受け入れの方針 【学校教育学研究科】 2. 学校教育学研究科入学者受け入れの方針	・アドミッションポリシー	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
(自由記載欄) ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。 特になし			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準5-2 学生の受入が適切に実施されていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[5-2-1] 学生受入方針に沿って、受入方法を採用しており、実施体制により公正に実施していること	▼入学者選抜の方法一覧（別紙様式5-2-1） 【教育学部】 1. 入学の資格等（佐賀大学学則第9,14条、令和2年学生便覧p74-75） 2. 佐賀大学案内冊子（毎年度） (https://www.sao.saga-u.ac.jp/) 【学校教育学研究科】 1. 入学資格（佐賀大学学則第24条、令和2年学生便覧p90） 2. 佐賀大学大学院学校教育学研究科委員会規程第3条（審議事項(4)） 3. 佐賀大学大学院学校教育学研究科運営委員会規程第2条（任務(5)） 4. 佐賀大学大学院学生募集要項 学校教育学研究科（教職大学院）（専門職学位課程）（毎年度） ▼入試委員会等の実施組織及び入学者選抜の実施体制が確認できる資料 【教育学部】	・実施要項（学部） ・実施要項（研究科）	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある

	<p>1. 学部入試の概要（毎年度） 2. 佐賀大学教育学部に置く委員会等に関する規程_別紙様式1 入試・広報委員会（任務(1)）</p> <p>▼面接、実技試験等において評価の公正性を担保する組織的取組の状況を示す資料（面接要領等） 【教育学部】 1. 面接要領</p>		
<p>[5-2-2] 学生受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組を行っており、その結果を入学者選抜の改善に役立てていること</p>	<p>▼学生の受入状況を検証する組織、方法が確認できる資料 【教育学部】 1. 佐賀大学教育学部に置く委員会等に関する規程別紙様式1 入試・広報委員会任務（審議事項等）(1)(2) 2. 平成21～令和2年度学部入試統計(HP) 3. 佐賀大学教育学部入試・広報委員会（令和2年度）議事録</p> <p>▼学生の受入状況を検証し、入学者選抜の改善を反映させたことを示す具体的事例等 【教育学部】 1. 佐賀大学教育学部入試・広報委員会（令和2年度）議事録</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐賀大学における学生受入れ及び入学者選抜制度・方法の検証及び改善に関する方針 ・ 志願倍率 ・ 入試制度変更届 	<p>■ 適切である</p> <p>□ 改善を要する点がある</p>
<p>（自由記載欄） ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p> <p>特になし</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準5-3 実入学者数が入学定員に対して適正な数となっていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果

<p>[5-3-1] 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないこと</p>	<p>認証評価共通基礎データ様式【大学用】様式2 1. 佐賀大学入試統計平成28-31年度学部別状況 2. 平成28年度～令和2年度佐賀大学大学院学校教育学研究科志願者数等 【教育学部】 1. 入学定員充足率_各年度における教育学部の入学定員と入学者数の推移 【学校教育学研究科】 1. 過去5年間の充足率</p>	<p>・認証評価共通基礎データ様式(様式2)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある</p>
<p>(自由記載欄) ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p> <p>特になし</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[6-1-1] 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	【教育学部・学校教育学研究科】 1. 学位授与の方針 (http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kyouikuhousin.html) 【教育学部】 2. 学位授与の方針（令和2年度履修の手引きp2～3） 【学校教育学研究科】 1. 学位授与の方針（令和2年度履修案内 p3） 2. 佐賀大学大学院学校教育学研究科規則第2条（研究科の目的）、3条（専攻及びコース） [補足説明等]	・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
（自由記載欄） ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。 特になし			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[6-2-1] 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が分かりやすいように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	【教育学部・学校教育学研究科】 1. 教育課程編成・実施の方針 (http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kyouikuhousin.html) 【教育学部】 1. 教育課程編成・実施の方針（令和2年度履修の手引きp3～5） 【学校教育学研究科】 1. 教育課程編成・実施の方針（令和2年度履修案内 p3～4）	・教育課程編成・実施の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある

<p>[6-2-2] 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること</p>	<p>【教育学部・学校教育学研究科】</p> <p>1. 佐賀大学学士力（令和2年度学生便覧p1及びURL=https://www.saga-u.ac.jp/koho/2016gakushiryoku.html)</p> <p>2. 学位授与の方針（https://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kyouikuhousin.html）</p> <p>【教育学部】</p> <p>1. 学位授与の方針（令和2年度履修の手引きp2～3）</p> <p>【学校教育学研究科】</p> <p>1. 学位授与の方針（令和2年度履修の手引き p3）</p>	<p>・教育課程編成・実施の方針</p> <p>・学位授与の方針</p>	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>
<p>（自由記載欄）</p> <p>※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p> <p>特になし</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
<p>[6-3-1] 教育課程の編成が、体系的性を有していること</p>	<p>【教育学部】</p> <p>1. 教育課程の編成、履修方法（佐賀大学学則第16, 17条、令和2年度学生便覧p75-76）</p> <p>2. 教育の実施体制（令和2年度履修の手引き p5）</p> <p>3. 学士力と授業科目との対応（令和2年度履修の手引き p6）</p> <p>4. 教育学部学校教育課程における教育目標を達成するための授業科目の流れ（カリキュラムマップ）（令和2年度履修の手引き p7）</p> <p>5. 令和2年度コースナンバリング表</p> <p>6. 平成30年度コースナンバリング点検・検証報告書</p> <p>【学校教育学研究科】</p> <p>1. 教育課程の編成（佐賀大学大学院学則第11条の2、令和2年度学生便覧p87）</p> <p>2. 教育方法（佐賀大学大学院学則第12条、令和2年度学生便覧p88）</p> <p>3. 履修方法等（佐賀大学大学院学則第13条、令和2年度学生便覧p89）</p>	<p>・履修モデル</p> <p>・カリキュラムマップ</p> <p>・コースナンバリング</p>	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>

	<p>4. 佐賀大学大学院学校教育学研究科委員会規程第3条（審議事項(3)）</p> <p>5. カリキュラムマップ（令和2年度履修案内 p5～8）</p> <p>6. 平成30年度コースナンバリング点検・検証報告書（開講科目の分野別割合、開講科目の水準別割合等）</p> <p>【学校教育学研究科】</p> <p>1. 複数教員による教育研究指導体制の制度設計（令和2年9月30日現在）</p> <p>▼授業科目の開設状況が確認できる資料</p> <p>【教育学部】</p> <p>1. 学校教育課程のカリキュラム構成、授業科目履修年次概略表、卒業の必要な単位数表（令和2年度履修の手引き p12～14）</p> <p>2. 専門教育科目の開設授業科目表について（令和2年度履修の手引き p58～113）</p> <p>3. 令和2年度時間割</p> <p>【学校教育学研究科】</p> <p>1. 開講科目、授業科目の内容（令和2年度履修案内 p26～44）</p> <p>2. 教員免許（令和2年度履修案内 p45～48）</p> <p>3. 令和2年度時間割</p>		
<p>[6-3-2]</p> <p>授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること</p>	<p>▼シラバス</p> <p>【教育学部・学校教育学研究科】</p> <p>1. オンラインシラバス http://syllabus.sc.admin.saga-u.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on</p> <p>2. シラバス点検表</p> <p>3. 教職科目シラバス点検表</p> <p>4. シラバス作成の手引き</p> <p>5. シラバス点検・改善に関する要項</p> <p>【教育学部】</p> <p>1. 開講科目の設置趣旨（令和2年度履修の手引き p8～11）</p> <p>▼分野別第三者評価の結果</p> <p>【教育学部】</p> <p>1. 令和2年度シラバス点検報告書様式</p> <p>2. 令和2年度シラバス点検表</p> <p>3. 令和2年度シラバス点検集計表</p> <p>【学校教育学研究科】</p> <p>1. 令和2年度シラバス点検報告書様式</p> <p>2. 令和2年度シラバス点検表</p> <p>▼その他自己点検・評価において体系性や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料</p> <p>【教育学部・学校教育研究科】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス ・シラバス点検に関する要項 ・シラバス点検フロー ・シラバス作成の手引き ・シラバス点検結果 	<p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である</p> <p><input type="checkbox"/> 改善を要する点がある</p>

	<p>1. 令和2年度教育学部・学校教育研究科自己点検・評価書</p> <p>2. 令和2年度佐賀大学部局等評価検証結果報告書</p>		
<p>[6-3-3]</p> <p>他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<p>【教育学部・学校教育学研究科】</p> <p>1. 単位互換（令和2年度学生便覧 p62）</p> <p>【教育学部】</p> <p>1. 他の大学又は短期大学における授業科目の履修等、大学以外の教育施設等における学修、入学前の既修得単位等の認定（佐賀大学学則第23～25条、令和2年度学生便覧 p76-77）</p> <p>2. 佐賀大学教育学部入学前の既修得単位等の認定に関する規程、入学前の既修得単位認定申請書様式</p> <p>3. 留学先大学で修得した授業科目の単位認定に係る申合せ</p> <p>4. 大学コンソーシアム佐賀における単位互換に関する協定書</p> <p>5. サイバー大学との単位互換（教育学部教務委員会議事録）</p> <p>【学校教育学研究科】</p> <p>1. 他の大学院及び外国の大学院における授業科目の履修等、入学前の既修得単位の認定（佐賀大学大学院学則第14条、15条、平成30年度学生便覧 p88）</p> <p>2. 他の大学院等における授業科目の履修（佐賀大学大学院学校教育学研究科規則第6条、令和2年度履修案内 p16～17）</p> <p>3. 入学前の既修得単位等の認定（佐賀大学大学院学校教育学研究科規則第7条、令和2年度履修案内 p17）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀大学学則 ・佐賀大学大学院学則 ・他の大学において履修した授業科目の認定のための審査内規 ・各学部・研究科の該当する規則 	<p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である</p> <p><input type="checkbox"/> 改善を要する点がある</p>
<p>[6-3-4]</p> <p>大学院課程（専門職学位課程を除く）においては、学位論文（特定の課題についての研究成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること</p>	<p>【学校教育学研究科のみ】</p> <p>▼研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（規定、申合せ等）</p> <p>1. 佐賀大学大学院学校教育学研究科運営委員会規程第2条（任務(1)）</p> <p>▼研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料</p> <p>1. 実習報告書</p> <p>2. 実践研究報告書（令和2年度履修案内 p12）</p> <p>▼TA・RAとしての活動を通じた能力の育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀大学大学院学則 ・研究科規則 ・佐賀大学大学院における研究指導計画に基づく研究指導実施要領 	<p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である</p> <p><input type="checkbox"/> 改善を要する点がある</p>

	成、教育的機能の訓練を行っている場合は、T A ・ R A の採用、活用状況が確認できる資料 1. 令和2年度認証評価受審時資料		
<p>(自由記載欄) ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p> <p>特になし</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[6-4-1] 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	<p>▼1年間の授業を行う期間が確認できる資料(学年暦、年間スケジュール等)</p> <p>【教育学部・学校教育学研究科】</p> <p>1. 1年間の授業期間(佐賀大学学則第20条、平成30年学生便覧p76)</p> <p>2. 授業期間(佐賀大学学則第21条、令和2年学生便覧p76)</p> <p>3. 学年暦(令和2年度学生便覧p4)</p> <p>4. 学年暦及び年間行事予定表(令和2年度学生便覧p3)</p> <p>【教育学部】</p> <p>1. 学年暦及び年間行事予定表(令和2年度履修の手引き p115)</p> <p>【学校教育学研究科】</p> <p>1. 学年暦・授業時間(令和2年度履修案内)</p>	<p>・佐賀大学学則</p> <p>・佐賀大学大学院学則</p> <p>・学年暦</p>	<p>■適切である</p> <p><input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>

<p>[6-4-2] 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること</p>	<p>▼1年間の授業を行う期間が確認できる資料 (学年暦、年間スケジュール等) (分析項目6-4-1と同じ)</p> <p>▼シラバス 【教育学部・学校教育学研究科】 1. オンラインシラバス 2. 令和2年度時間割</p>	<p>・学年暦 ・シラバス</p>	<p>■適切である □改善を要する点がある</p>
<p>[6-4-3] 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること</p>	<p>▼シラバスの全件、全項目が確認できる資料 (電子シラバスのデータ、又はURL等)、 学生便覧等関係資料 【教育学部・学校教育学研究科】 1. オンラインシラバス (http://syllabus.sc.admin.saga-u.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on)</p> <p>【教育学部】 1. 授業の方法(佐賀大学学則第18条、令和2年度学生便覧p76) 2. 教育・指導の方法(令和2年度履修の手引きp5) 3. 登録単位数の上限(令和2年度履修の手引きp17) 4. 令和2年度アクティブ・ラーニング導入状況調査(教務専門委員会資料) 5. 佐賀大学教育学部教務委員会議事録</p> <p>【学校教育学研究科】 1. 長期にわたる教育課程の履修(佐賀大学大学院学則第16条、令和2年度学生便覧p88) 2. 長期にわたる教育課程の履修、他の大学院等における研究指導(佐賀大学大学院学則第16,17条、令和2年度学生便覧p88~89)</p>	<p>・シラバス ・履修の手引き</p>	<p>■適切である □改善を要する点がある</p>
<p>[6-4-4] 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること</p>	<p>【教育学部・学校教育学研究科】 根拠資料6-4-4-① オンラインシラバス (http://syllabus.sc.admin.saga-u.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on)</p> <p>▼教育上主要と認める授業科目(別紙様式6-4-4)</p> <p>【教育学部】 1. 教育上主要と認める授業科目</p> <p>【大学院学校教育学研究科】 2. 主要授業科目</p>	<p>・(別紙様式6-4-4)教育上主要と認める授業科目 ・シラバス</p>	<p>■適切である □改善を要する点がある</p>

<p>[6-4-5] ※教職大学院のみ対象 専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度（CAP制度）を適切に設けていること</p>	<p>【学校教育学研究科】 1. 履修科目の登録の上限（佐賀大学大学院学則第13条の4、令和2年度学生便覧p88） 2. 履修科目の登録の上限（令和2年度履修案内p11） 3. 履修登録単位の上限（佐賀大学大学院学校教育学研究科履修細則第5条、令和2年度履修案内p19） 3. 履修科目の登録の上限（令和2年度履修案内p12）</p>		<p><input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある</p>
<p>[6-4-6] 大学院において教育方法の特例（大学院設置基準第14条）の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること</p>	<p>該当なし</p>	<p>・佐賀大学大学院学則 ・研究科規則</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある</p>
<p>（自由記載欄） ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p> <p>特になし</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準6-5 学位授与方針に則して、適切な履修指導、支援が行われていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
<p>[6-5-1] 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること</p>	<p>【教育学部・学校教育学研究科】 1. 学生関係のシステムについて（令和2年度学生便覧p21～23） 2. 履修登録について（令和2年度学生便覧p24） 3. 履修規程等について（令和2年度学生便覧p97） 4. 長期にわたる教育課程の履修（佐賀大学学則第27条、令和2年度学生便覧p77） 5. 令和2年度授業時間割</p> <p>【教育学部】 1. 休学、復学、退学、転学、転学部及び転学科、派遣及び留学等（佐</p>	<p>・（別紙様式6-5-1）履修指導の実施状況 ・新入生オリエンテーション資料</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある</p>

	<p>賀大学学則第28, 29, 32, 33条、令和2年度学生便覧p77)</p> <p>2. 転学部・転学科等（佐賀大学における入学後の進路変更に関する方針（令和2年度学生便覧p115）</p> <p>3. 佐賀大学教育学部転学部、転コース及び転専攻に関する内規（平成28年3月20日制定）（令和2年度学生便覧p116）</p> <p>4. 履修手続き（令和2年度履修の手引きp16）</p> <p>5. 諸手続き（令和2年度履修の手引きp20）</p> <p>6. 教員免許状と教育実習について（令和2年度履修の手引きp21～25）</p> <p>7. 教員免許状と介護等体験について（令和2年度履修の手引きp27）</p> <p>8. 教員免許状の取り方（令和2年度履修の手引きp28～55）</p> <p>9. 履修方法、履修手続（教育学部規則第8, 9条、令和2年度履修の手引きp115）</p> <p>10. 履修手続（教育学部履修細則第10条、令和2年度履修の手引きp120～121）</p> <p>11. 専門教育科目（佐賀大学教育学部履修細則第7条及び別表I、令和2年度履修の手引きp120、p122、別表II（p123～167））</p> <p>12. 教育学部卒業研究に関する細目（令和2年度履修の手引きp168）</p> <p>13. 新入生オリエンテーション（案内、説明資料）（毎年度）</p> <p>【学校教育学研究科】</p> <p>1. 転入学、再入学、休学、復学、退学、転学、転研究科及び転専攻、派遣及び留学等（佐賀大学大学院学則第34, 35, 38, 39条、令和2年度学生便覧p91～92）</p> <p>2. 履修基準、履修方法（令和2年度履修案内 p9）</p> <p>3. 現職教員等の教育方法の特例措置（令和2年度履修案内 p9）</p> <p>4. 指導教員（佐賀大学大学院学校教育学研究科規則第4条、令和2年度履修案内 p16）</p> <p>5. 授業科目、単位数及び履修方法（佐賀大学大学院学校教育学研究科規則第5条、令和2年度履修案内 p16）</p> <p>6. 転入学又は再入学を許可された</p>		
--	--	--	--

	<p>者の既修得単位等の認定（佐賀大学大学院学校教育学研究科規則第16条、令和2年度履修案内 p17～18）</p> <p>7. 授業科目及び単位数等（令和2年度履修案内p17 佐賀大学大学院学校教育学研究科履修細則第3条及び別表 I（p18、p20～23）</p> <p>8. 履修方法（佐賀大学大学院学校教育学研究科履修細則第4条（令和2年度履修案内p18）</p> <p>9. 教員免許（令和2年度履修案内 p38～40）</p> <p>10. 各種手続き等について（令和2年度履修案内p49）</p> <p>11. 令和2学校教育学研究科主指導教員及び副指導教員について</p> <p>▼履修指導の実施状況</p> <p>【教育学部】</p> <p>1. 卒業予定者に対するラーニング・ポートフォリオを活用したチューター指導の実施について（依頼）</p> <p>2. 履修指導の実施状況（別紙様式 6-5-1）</p> <p>[補足説明等]</p>		
<p>[6-5-2]</p> <p>学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること</p>	<p>1. 学習相談の実施状況（別紙様式 6-5-2）</p> <p>【教育学部・学校教育学研究科】</p> <p>1. オフィスアワー一覧表（毎年度前期・後期）</p> <p>2. チューター担当一覧（例）</p> <p>3. ラーニングポートフォリオ入力状況（例）（2016年度入学生）</p> <p>【R2.3.2 現在】</p> <p>4. ポートフォリオ学習支援統合システムに付与された記載学生要望欄</p> <p>【教育学部】</p> <p>1. 学習サポーターの心得</p> <p>2. 学習サポーターの配置(改訂版)様式</p> <p>3. 「オフィスアワー届」の例（令和2年度前学期）</p> <p>4. 2019年度授業評価アンケート分析（教育学部）</p> <p>5. 2019年度授業評価アンケート分析（文化教育学部）</p>	<p>・(別紙様式 6-5-2) 学習指導の実施状況</p> <p>・ 通信教育を行う課程を置いてい</p>	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>

	<p>6. 2019年度4月新入生アドバイザー研修会 7. 2019年度4月新入生アドバイザー制度の実施について</p>		
<p>[6-5-3] 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること</p>	<p>▼社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組（別紙様式6-5-3）</p> <p>【教育学部】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和2年度学生・就職委員会名簿 2. 「教育実践フィールド演習 I, II, III」及び「教育実習」シラバス 3. 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組（教育ボランティア活動） 4. 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組（キャリアガイダンス、平成28～31年度実施計画書、平成28～31年度実施計画） 5. 就職支援事業（教員採用選考試験対策資料（全体計画表、各取組の実施計画、教員担当者割り振り表、学生の指導予定表等） 6. 平成2年度における教育実習・教育実践フィールド演習・介護等体験に関する学生指導に使用した資料等 7. 教育実習における事前事後指導に関する資料 8. 企業による「キャリアタス就活」ポスター、キャリアアップセミナー資料等 9. 英語能力試験（TOEIC）結果 10. 学長ヒアリングに係る報告書（2020年10月） 11. 就職ヒアリング補足資料（2020年10月） <p>【学校教育学研究科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各探究実習の概要、各コースの探究実習科目（令和2年度履修案内p10～12） 2. 令和2年度教員採用試験対策講座実施報告 3. 2019年度学校教育学研究科主指導教員及び副指導教員について 	<ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式6-5-3）社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 ・インターンシップ参加実施状況 	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>

	[補足説明等]		
[6-5-4] 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整えていること	<p>▼履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況（別紙様式6-5-4）</p> <p>【教育学部】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害のある学生への合理的配慮の流れ 2. 留学生チューター一覧 3. 事前の相談が必要な学生調査について（令和2年1月14日） 4. 平成28年度～令和2年度CSW(キャンパスソーシャルワーカー) 支援学生数 5. 平成28年度～令和2年度学習サポーター人数 6. 平成28年度～令和2年度新入生アドバイザー実績（アドバイザー数と相談者数） <p>[補足説明等]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(別紙様式6-5-4) 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 ・佐賀大学 学生支援室 集中支援部門 	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>
<p>(自由記載欄)</p> <p>※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p> <p>特になし</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[6-6-1] 成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること	<p>▼成績評価基準</p> <p>【教育学部・学校教育学研究科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成績評価基準等の明示等（佐賀大学学則第18条の2、令和2年度学生便覧p76） 2. 佐賀大学成績判定等に関する規程（令和2年度学生便覧 p100） 3. 佐賀大学における成績評定平均値に関する規程、GPA の計算例（令和2年度学生便覧 p101～104） 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀大学成績判定等に関する規程 ・シラバス 	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>

	<p>【教育学部】</p> <p>4. 成績の評価（令和2年度履修の手引き p5） 5. 履修の手引きp117</p> <p>【学校教育学研究科】</p> <p>1. 成績の判定（佐賀大学大学院規則第13条の3、令和2年度学生便覧p88） 2. 成績評価基準等の明示等（佐賀大学大学院規則第17条の2、令和2年度学生便覧p89） 3. 成績判定及び単位の授与、試験、課程の修了（佐賀大学大学院学校教育学研究科規則第9, 10, 11 条）</p>		
<p>[6-6-2] 成績評価基準を学生に周知していること</p>	<p>▼成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該当箇所</p> <p>【教育学部・学校教育学研究科】</p> <p>1. 佐賀大学における学修成果にかかる評価の方法と基準の周知及び成績評価に関する情報の開示に関する要項（令和2年度学生便覧p106） 2. オンラインシラバス (http://syllabus.sc.admin.saga-u.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on)</p> <p>【教育学部】</p> <p>1. 成績の判定（佐賀大学学則第22条、令和2年度学生便覧p76）</p> <p>【学校教育学研究科】</p> <p>1. 成績の判定（佐賀大学大学院学則第 13 条の 3、令和 2 年度学生便覧 p88）</p>	<p>・ 学生便覧 ・ 履修案内</p>	<p>■ 適切である □ 改善を要する点がある</p>
<p>[6-6-3] 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること</p>	<p>▼成績評価の分布表</p> <p>【教育学部・学校教育学研究科】</p> <p>1. 学修成果にかかる評価の方法と基準の周知及び成績評価に関する情報の開示に関する要項 2. 2019年度成績評価の分布の点検・報告書（教育学部） 3. 2019年度成績評価の分布の点検・報告書（文化教育学部） 4. 2019年度成績評価の分布の点検・報告書（学校教育学研究科） 5. 2019年度成績評価の分布データ（教育学部） 6. 2019年度成績評価の分布データ（文化教育学部）</p> <p>▼成績評価分布等のデータを関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料</p> <p>【教育学部】</p> <p>1. 成績評価の分布の点検・報告書 2. 成績評価の分布の確認依頼（メール）</p> <p>【学校教育学研究科】</p>	<p>・ 成績評価の分布表 ・ 成績評価の分布の点検・報告書 ・ 佐賀大学における成績評定平均値に関する規程 ・ 履修細則</p>	<p>■ 適切である □ 改善を要する点がある</p>

	<p>1. 成績評価の分布の点検・報告書</p> <p>▼GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料</p> <p>【教育学部・学校教育学研究科】</p> <p>1. GPA制度について（学生用説明文）</p> <p>2. 佐賀大学における成績評定平均値に関する規程</p> <p>3. GPA 取得状況</p>		
<p>[6-6-4] 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること</p>	<p>▼学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料</p> <p>【教育学部・学校教育学研究科】</p> <p>1. 佐賀大学学生の成績評価の異議申立ての手続きに関する要項（令和2年度学生便覧p107）</p> <p>【教育学部】</p> <p>1. 成績評価に対する異議申立について（令和2年度履修の手引き）</p> <p>2. 佐賀大学教育学部における成績評価についての異議申し立て調査・検討に関する申合せ</p> <p>【学校教育学研究科】</p> <p>1. 学校教育学研究科における成績評価の異議申立てに関する申合せ</p> <p>▼申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ</p> <p>【教育学部】</p> <p>1. 令和2年度教務委員会及び学生・就職委員会議事録</p> <p>【学校教育学研究科】</p> <p>1. 申立ての件数=0</p>	<p>・学生便覧</p> <p>・佐賀大学学生の成績評価の異議申立ての手続きに関する要項</p> <p>・成績評価に関する異議申立て件数等のデータ</p>	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>
<p>（自由記載欄）</p> <p>※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p> <p>特になし</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
<p>[6-7-1] 大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定していること</p>	<p>▼卒業又は修了の要件を定めた規定</p> <p>【教育学部】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 修業年限、在学年限（佐賀大学学則第6,7条、令和2年度学生便覧p74） 2. 卒業の認定（佐賀大学学則第35条、令和2年度学生便覧p78） 3. 学位の授与（佐賀大学学則第36条、令和2年度学生便覧p78） 4. 卒業の要件（佐賀大学教育学部規則第14条、令和2年度履修の手引きp117） <p>【学校教育学研究科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 標準修業年限、在学年限（佐賀大学大学院学則第7,10条、令和2年度学生便覧p87） 2. 専門職学位課程の修了要件（佐賀大学大学院学則第20条の2、令和2年度学生便覧p89） 3. 学位論文及び最終試験（佐賀大学大学院学則第21条、令和2年度学生便覧p90） 4. 学位の授与（佐賀大学大学院学則第22条、令和2年度学生便覧p90） 5. 修了認定及び学位（令和2年度履修案内 p9） 6. 成績判定及び単位の授与、課程の修了（佐賀大学大学院学校教育学研究科規則第9,11条、令和2年度履修案内p17） 7. 修了に必要な単位数（佐賀大学大学院学校教育学研究科履修細則第2条、令和2年度履修案内p18） <p>▼卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料</p> <p>【教育学部】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業の認定（佐賀大学学則第35条、令和2年度学生便覧p78） 2. 佐賀大学教育学部教授会規程第3条 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀大学学位規則 ・佐賀大学大学院学則 	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>

	<p>3. 佐賀大学教育学部教務委員会内規第2条</p> <p>【学校教育学研究科】</p> <p>1. 佐賀大学大学院学校教育学研究科委員会規程第3条（審議事項(4)）</p> <p>2. 佐賀大学大学院学校教育学研究科運営委員会規程第2条（任務(4)）</p>		
<p>[6-7-2]</p> <p>大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文評価基準」という。）を組織として策定していること</p>	<p>▼修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料</p> <p>1. 佐賀大学学位規則第18～19条</p> <p>※以下は学校教育学研究科は該当しない。</p> <p>▼学位論文（課題研究）の審査に係る手続き及び評価の基準</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐賀大学学位規則 ・ 佐賀大学大学院学則 ・ 論文審査の評価基準 	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>
<p>[6-7-3]</p> <p>策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること</p>	<p>▼卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所</p> <p>【教育学部】</p> <p>1. 卒業に必要な単位数表（令和2年度履修の手引き p14）</p> <p>2. 成績評価及び通知（令和2年度履修の手引き p18）</p> <p>【学校教育学研究科】</p> <p>3. 履修基準、履修方法、修了認定及び学位（令和2年度学校教育学研究科履修案内 p9）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 履修案内 	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>
<p>[6-7-4]</p> <p>卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること</p>	<p>▼教授会等での審議状況等の資料</p> <p>【教育学部】</p> <p>1. 令和2年度卒業認定_教授会資料</p> <p>2. 令和2年度卒業認定_教授会議事録</p> <p>3. 令和2年度卒業認定_教務委員会議事録</p> <p>4. 教育学部卒業判定・教授会議事録（令和2年度2月）</p> <p>5. 文化教育学部卒業判定・教授会議事録（令和2年度2月）</p> <p>【学校教育学研究科】</p> <p>1. 令和2年度修了認定_研究科委員会第12回資料</p> <p>2. 令和2年度修了認定_研究科委員会第12回議事録</p> <p>※以下は学校教育学研究科は該当しない。</p> <p>▼学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査手続き等 ・ 研究科規則 	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>

	<p>手続き等</p> <p>▼学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料</p> <p>▼審査及び試験に合格した学生の学位論文</p>		
[6-7-5] 専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること			
<p>(自由記載欄)</p> <p>※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p> <p>特になし</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[6-8-1] 標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	<p>▼標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率</p> <p>【教育学部，学校教育学研究科】 （別紙様式6-8-1）</p> <p>1. 標準修業年限内卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率</p> <p>▼資格の取得者数が確認できる資料</p> <p>【教育学部】</p> <p>1. 令和2年度教員免許状取得者数（コース・専攻別）</p> <p>2. 令和2年度教員免許状取得状況（平成28～平成元年度文化教育学部学校教育課程との比較）</p> <p>3. 令和2年度教務委員会資料</p> <p>【学校教育学研究科】</p> <p>1. 令和2年度研究科（運営）委員会資料_修了認定資料（R2.3.24）</p> <p>2. 修了生_中西さん（2020論文表</p>	<p>・（別紙様式6-8-1）標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率</p> <p>・学位取得状況が分かる資料</p>	<p>■適切である</p> <p><input type="checkbox"/> 改善を要する点がある</p>

	<p>彰)</p> <p>3. 研究科紀要_4 巻表紙・目次（目次に挙がっているもののうち、江口、北村、丸田、竹下、松田、船津、松本、木田、脇部論文が大学院生の研究論文）</p>		
<p>[6-8-2]</p> <p>就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学（進学率）の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<p>【教育学部・学校教育学研究科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 就職率及び進学率の状況（別紙様式6-8-2） 2. 就職・進学先一覧 3. 学校基本調査資料 4. 学長ヒアリングに係る報告書（2020年10月実施） 5. 就職ヒアリング補足資料（2020年10月実施） <p>【学校教育学研究科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2019年度修了生勤務先一覧 2. 修了生_中西さん（2020佐賀新聞記事） 3. 修了生_中西さん（2020佐賀新聞記事2） 4. 修了生_林さん（2019年度佐賀県教育委員会教育長表彰） 	<ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式6-8-2）就職率及び進学率の状況 ・就職・進学先一覧 	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>
<p>[6-8-3]</p> <p>卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<p>▼学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料</p> <p>【教育学部・学校教育学研究科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業アンケート 2. 佐賀大学卒業（修了）予定者を対象とした共通アンケート実施要項 3. 佐賀大学共通アンケート集計結果（学部4年生卒業予定者、大学院修士課程対象） 4. 2019年度卒業生及び修了生と学部長との懇談会メモ <p>【教育学部】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 佐賀大学共通アンケート集計結果（学部3年生対象） <p>【学校教育学研究科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育経営探究コースにおける教員・学生の意見交換会記録 2. 教職大学院平成30年度修了生アンケート（まとめ） 3. 教職大学院・2019年度修了生フォローアップ調査結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート集計結果 ・卒業予定者アンケート集計結果 ・卒業生・修了生アンケート集計結果 	<p>■適切である</p> <p>□改善を要する点がある</p>

<p>[6-8-4] 卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<p>▼卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料 【教育学部】 1. 教員養成カリキュラム質問調査の結果（検討委員会アンケート） 【学校教育学研究科】 1. 令和2年度修了生対象のアンケート</p>	<p>・卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取結果</p>	<p>■適切である <input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>
<p>[6-8-5] 就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<p>▼就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料 【教育学部】 1. 佐賀県教育委員会との意見交換会_卒業生(教員)に関する情報(教員採用試験に係る県教委との第2回情報交換会(令和2年10月)) 【学校教育学研究科】 1. 修了生フォローアップ調査(管理職)</p>	<p>・企業アンケート集計結果</p>	<p>■適切である <input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>
<p>(自由記載欄) ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p> <p>特になし</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

・大学改革支援・学位授与機構の大学機関別認証評価基準及び自己評価実施要項等については、以下のリンク先を参照。

https://www.niad.ac.jp/evaluation/certification_evaluation/ce_university/ce_un_outline/
(令和2年度実施分)

- ・何がどのように優れているか・改善すべきか等を自己評価する。必要に応じて、後掲「教育の水準の分析」の記述内容と関連させる。
- ・改善を要する事項については、別紙様式にその改善状況を記載すること。
- ・評価作業を効率化し、既存のデータ・資料の活用を図る観点から、参考までに以下のとおり示す。

◎ 教育に関する第3期中期目標期間の中期計画・年度計画番号とその取組状況
(進捗管理システムにデータ有り)

- 計画番号【001～006】（教育内容及び教育の成果等に関する目標）
- 計画番号【007～013】（教育の実施体制等に関する目標）
- 計画番号【014～017】（学生への支援に関する目標）
- 計画番号【018～019】（入学者選抜に関する目標）

Ⅲ－Ⅱ 教育の水準の分析（教育活動及び教育成果の状況）（記述するかは部局の判断とする）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

A. 教育の国際性

【教育学部】

佐賀大学では、学生に明確な学習目標を与え、自律的かつ持続的な学習を促し、英語教育の改善及び教育の質保証に資するために、平成25年度以降に入学した全学部学生を対象に、1年次及び2年次に英語能力試験としてTOEIC-IPを実施している。

(<https://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/zenkyo-zengakubu.pdf>)

平成28年度より令和2年度まで、受験生の平均点は400点台前半で推移している。学年ごとで比較しても大きな差は見られない。(<https://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/toEIC.html>)

教育学部の目的は、学校教育の教員養成であるため、外国語科目は正課のコア科目としては位置づけられていない。そのため、学部在籍中に、教科として英語を選択していない学生の外国語科目による会話能力の向上は難しい。しかしながら、国際交流については語学力以外にもコミュニケーションの仕方の多様さを学んだりできるなど、教員の資質を向上させる活動として重要と認識しているため、国際交流推進センターの積極的な利用を促している。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、交流の延期、国費外国人留学生あるいは大学間協定校からの留学生（佐賀大学短期留学プログラムSPACE-E）の早期帰国、トビタテ！留学JAPANによる本学部学生の一時的帰国、入国制限などの影響が現れた。一方、母国に居ながら、遠隔（オンライン）による授業が行われるなどの展開も見られた。

B. 地域連携による教育活動

【教育学部・学校教育学研究科】

1) 佐賀大学教育学部、佐賀大学大学院学校教育学研究科及び佐賀県教育委員会との連携・協力協議会

教育学部及び学校教育学研究科では、平成17年度より佐賀県教育委員会と連携・協力協定を締結し、教員の養成及び資質・能力の向上、学校教育上の現代的諸課題への対応など、佐賀県の教育の充実・発展のために連携事業を実施している。

1つの協議会および4つの専門部会のもと令和2年度は12の事業が実施された。各事業では教育学部・学校教育学研究科の担当教員が佐賀県教育委員会の教職員とともに企画・運営を行う。学部教員が研修・講習・勉強会等の講師として参画している。

年2回（5月（第一回）及び2月頃（第二回））の定例会合を持ち、事業の目的・概要・経緯及び取組実績の共有、事業評価を行い、意見交換等を行っている。令和2年度は下記の取組を行った。

1. 教員養成研修改革協議会

教員養成のあり方、教員としての資質向上を図る施策

佐賀県教員研修計画検討委員会を開催した（3回）

2. 教育ボランティア活動

- 県内の学校において、教員志望の学生による教育活動支援
子供とのコミュニケーションの取り方を身につける
令和2年度は中止（新型コロナウイルス感染症拡大）
3. 「教職実践演習」の実施と教員養成カリキュラムの見直し
教職課程修了時に、教師としての基礎的資質の形成について評価・確認する
オンラインによる実施（新型コロナウイルス感染症拡大）
4. 中堅教諭等資質向上研修等研修機会の多様化
中堅教諭等としての職務を遂行する上で必要とされる学習指導、生徒指導等に対する指導力の向上、教育公務員としての資質向上
令和2年度は6つの講座を開講した。
(根拠資料 Z_地域貢献に係る情報の教育学部ホームページ上での掲示)
4. 理科指導力向上プログラム
理科学習における観察・実験を安全に行うための基礎的・基本的な事項の理解を深め、その知識や技能を習得する
令和2年度は中止（新型コロナウイルス感染症拡大）
5. 特別支援教育・教育相談の教員研修に関連する事業ー①
発達障害の子どもへの対応を含む特別支援教育について、現職教員を対象に研修
令和2年度は中止（新型コロナウイルス感染症拡大）
6. 特別支援教育・教育相談の教員研修に関連する事業ー②
家族療法について理解を深め、事例検討（自閉スペクトラム症、学校不適応と起立性調節障害）を行った
令和2年度は、動画共有サービスを用いて配信（新型コロナウイルス感染症拡大）
7. 小中連携による学力向上推進地域指定事業
佐賀県で学ぶ子どもたちの学力向上に係る課題の解決を行う
支援要請を受ける窓口を設置、の指導助言や指導講話等の訪問支援
(新型コロナウイルス感染症により件数は減少)
8. ICT 利活用による学校支援
佐賀県内の ICT 利活用教育の推進を図る
令和2年度は、附属学校において GIGA スクール構想に関わる機器やネットワーク関係の環境整備) や ICT とその研修に関連して、講習への講師派遣、研修会や各種イベントが開催された
8. いじめ防止調査研究事業
「いじめ防止対策推進法」に基づき、教員の資質向上を目指した研修や研修成果の検証を行う
9. 教師力・学校力向上に資する実践研究
佐賀県教育センターの研究の質の向上を図る、教育センターの研究成果を有効に活用する、佐賀大学教員養成課程における教員志望学生の育成の充実を図る
令和2年度は、国語科、算数科、数学科、図画工作科、美術科で連携が行われた。
10. 実践的指導力向上事業
佐賀大学教職大学院と佐賀県教育委員会が、佐賀県の教育課題解決に取り組む探究心の

醸成と実践的指導力の向上に取り組む。

令和2年度は、幾つかの研修が中止となり、一部の研修が実施された。

11. 学び続ける学校トップリーダーの資質向上事業

多様で複雑な教育課題に対して組織的・効果的な対応を行うことができる「チーム経営」のマネジメント力を高める

令和2年度は、3つのセッション（「学校組織の理解と運営」、「危機管理・広報」、「職務遂行能力」）が実施された。

12. 特別支援教育・教育相談の教員研修に関連する事業②

特別支援教育担当教員の力量（特別支援教育の専門性）を向上させる研修を行う

令和2年度は中止（新型コロナウイルス感染症拡大）

2) 附属学校との連携

【教育学部】

①学部附属共同研究

教育学部では、附属学校を地域のモデル校として位置づけ、連携して毎年、著書、論文（教育実践事例報告を含む）、学会発表、講演、講習会、学部学生への授業（附属学校教員による教育実習事前・事後指導、実施指導など）、アンケート、実習や実験など、卒業論文や修士論文の作成、要項審議などの（授業あるいは指導案）研究、などの活動を行っている。

その結果は公開されており、地域に還元されている。

②「大学の授業を受けてみよう」（佐賀大学教育学部附属中学校育友会行事講座）

附属中学校の生徒を対象に、大学での様々な専門分野の興味深い授業を受けることによって、将来について考える機会を与えることを目的として開催されている。毎年、本学部教員も参画している。

しかしながら、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止された。

3) 地域の教員養成に資する研究

【教育学部】（高大連携の活動）

①継続・育成型高大接続カリキュラム「教師へのとびら」の実証的開発研究

本研究は、学び続ける教師の養成に資する、効果的な高大接続のあり方を解明することを目的とし、教職に興味をもつ佐賀県内の高校生を対象とする高大連携カリキュラムを開発・展開した研究である。2019年度までに実施したカリキュラムの実績をふまえ、受講生用の専用テキストを東京書籍から2020年3月に公刊した。2021年度は同テキストを活用しながらカリキュラムを展開し、対面受講・オンライン受講の融合によるカリキュラムを開発した。また、2021年11月のプログラムにおいて、遠隔地に住む高校生のためにサテライト会場（唐津西高校）を設けた実施を試行した。

※「教師へのとびら」：教育分野に関心がある県内の高校生を対象に「教師へのとびら」を実施している。これは、高校3年間と大学4年間の計7年間で教師を育てる」というコンセプトのもと、教師という職業に対する理解を深め、自らの教員としての適性を高めることを目的としたカリキュラムである。高校1年の開始時、7月の教育委員会の方（元・現場の教員）の教師のあり方についての講義を聞くことから始まり、夏のオープンキャンパス時の本大学教員の講義を受ける機会や、11月に実際に本学の教員養成

に関わる授業のいくつかを大学生と共に受けることができるプロジェクトである。2年生になると、1年次と同様に7月の教育委員会の方からの講演を受けられる他、夏のオープンキャンパス時、本学のOBで現役の教師の方達(幼稚園・小学校・中学校・高校)を交え、参加者の高校生2年生同士で意見を話し合うワールドカフェに参加する。11月も同様に大学生と一緒に本学の授業を受けることができる。高校3年生の6月には、これまでのプロジェクトのまとめをポートフォリオに綴り、修了証授与式を迎える。高校生は1~3年生まで各自ポートフォリオを持つことで毎回のプロジェクトの学びを綴り、振り返ることができるようになっており、修了後にまとめて受け取る。また、オンラインシステムにより高校生の参加者が互いのポートフォリオの閲覧やコメントを記すことができるシステムも導入している。

令和2年度9月に高校3年生(25名)を対象に第1回をオンラインで実施した。事前に実施した実施方法に関するアンケートには高校生21名から回答があった。この結果をもとに企画立案を行った。ポートフォリオ提出用ガイドを作成した。

(根拠資料_令和2年度第1回高校3年生受講者用アンケートサイト、ポートフォリオ提出用ガイド)

ポートフォリオは高校3年生25名が提出・修了した(2020年9月17日現在)。ポートフォリオ交流会の特設サイトを設け、担当教員からのコメントとオンライン修了式を行った。

(根拠資料_高大連携プログラムの拡充実績)

令和2年度(令和3年1~2月)に高校2年生(58人)を対象に第1回をオンラインで実施した。内容は、「大学生と一緒に講義を受けてみよう」のオンライン形態による開催とした。合計10講義を開講した。開催期間は2021年1月23日~2月末日とした。

(根拠資料_高校2年生第1回オンラインプログラム実施サイト URL、高大連携_企画・運営の履歴(メール等))

「教師へのとびら」出身者が参画するプログラムとして、教師へのとびらを修了した本学部4年生(3人)による「高校3年生への応援メッセージ」をビデオ収録し、受講生に公開した。

(根拠資料_オンライン修了式等の公開サイト)

「教師へのとびら」出身者が参画するプログラムを計画・実施の一環として、「出身者」から「受講者」へのビデオメッセージを含むオンライン修了式を企画した。また、教師へのとびらを修了した大学4年生による「高校3年生への応援メッセージ」をビデオ収録し、受講生に公開した。

②「教師へのあゆみ」

「教師へのあゆみ」については、新型コロナウイルス感染症の影響によって実施体制を策定することができなかったため、次年度に検討することとした。

③地域社会への発展に貢献した広報活動

「広報体制・広報促進策の実施」の一環として、教育学部ホームページのリニューアルを行ない、更新作業をおこないやすくして情報発信力を高めるとともに、受験生等の閲覧しやすいサイトとなるよう改修を施した。

その一環として、佐賀県教育委員会との連携事業にかかわる案内を、教育学部ホームページに掲載した。

【学校教育学研究科】

教育委員会及び学校等との連携は、様々な側面で整備されている。佐賀大学と佐賀県教育委員会は、教職大学院の運営が円滑に行われ、優れた新人教員の養成及び現職教員の資質能力の向上を図ることを目的として「協定書」を締結している。

教職大学院の運営及び教育課程改善等のために「佐賀大学大学院学校教育学研究科（教職大学院）運営協議会規程」に基づき「運営協議会」を設置している。「運営協議会」は、専門職大学院設置基準第6条の2第1項で規定されている「教育課程連携協議会」の役割も果たしている。

「連携協力校」については、令和2年度も同様に、佐賀県教育委員会に加え、佐賀市教育委員会とも密接な連携協力体制を構築し、佐賀市立全小中学校（小学校35校・中学校18校）、佐賀県立高等学校（3校）、附属学校園（4校園）の計60校を確保している。併せて佐賀県教育委員会、佐賀県教育センター、佐賀県中央児童相談所等の教育関係機関とも連携し多様な探究実習ができるようにしている。

大学への実務家教員の派遣については、「佐賀県教育委員会と国立大学法人佐賀大学教育学部及び大学院学校教育学研究科との間における人事交流（附属学校を除く）に関する協定書」に基づき、教授又は准教授にふさわしい現職教員を佐賀県教育委員会と綿密に連携して審議・選考し、原則3年間採用している。

「みなし実務家教員」については、「佐賀県教育委員会と佐賀大学とのみなし実務家教員派遣に関する覚書」を取り交わし、現職教員の身分のまま原則3年間、週2日間教職大学院に派遣され、講義を担当している。

教職大学院への現職教員の学生派遣については、佐賀県教育委員会が毎年10名を選考し入学試験を受験させている。この10名については、入学料は佐賀大学が、授業料は佐賀県教育委員会が負担している。

「佐賀県教育委員会との連携・協力協議会」関係

平成17年に締結していた佐賀大学文化教育学部と佐賀県教育委員会との連携・協力協定を平成28年5月に「佐賀大学教育学部・佐賀大学大学院学校教育学研究科及び佐賀県教育委員会における連携・協力協定」として「新協定」の締結に改め、さらに充実した連携・協力事業の推進を始動させた。この連携・協力事業は佐賀県教育委員会の「佐賀県教育施策実施計画」に教育施策を実施するに当たっての事業として明確に位置付けられている。

上記の「協定」に基づき、教職大学院専門部会として、①「実践的指導力向上事業」と②「学び続ける学校トップリーダーの資質向上事業」の2本のプロジェクトを実施している。

①「実践的指導力向上事業」は、佐賀県鳥栖市、武雄市、唐津市の3地区に地元市町教育委員会との連携により設置している教職大学院「サテライトキャンパス」及び本庄キャンパスにおいて、授業全体や授業の一部の実施や地域の教職員や学生が共に学ぶ教員研修講座を開催している。

②「学び続ける学校トップリーダーの資質向上事業」は、「学び続ける教師」の育成を目指すとともに、佐賀県における教職員の生涯学習システム構築を目的とする。本事業を進めるに当たり綿密な打ち合わせを実施し、教職大学院と教育委員会の担当者が共同で研修の企画・立案・実施・検証・改善に取り組んでいる。

令和2年度、学校トップリーダー研修を、第1回（10月6日）、第2回（11月10日）、第3回（12月4日）オンデマンド配信で実施した。研究成果発表会（2月）を一部オンライン配信した。

（根拠資料 AA_R2 学校トップリーダー研修会①（開催要項）、学校トップリーダー研修会（セッションⅠ）、学校トップリーダー研修会（セッションⅡ）、学校トップリーダー研修会（セッションⅢ））

C. 教育の質の保証・向上

【教育学部】

①FD・SD講演会、研修会、簡易版・標準版TPの作成

主な活動として、新任・昇任教員のFD研修会、新任教員向けの研修会、科研費申請をテーマとしたFD講演会・研修会を開催した。

教育学部主催の研修会として、①「科研費申請と審査の真実」（山津先生、9月）、②「ICTを活用したオンラインによるアクティブラーニングの試み」（角先生、令和3年2月）、③「標準版TPWSの参加報告」（後藤先生、令和3年3月）、の3回がある。その他、全学教育機構やダイバーシティ推進室主催の講演会なども多数開催されており、教員の必要度に応じて出席がされている。

全学的なeラーニング研修（情報モラル、利益相反・責務相反マネジメント、研究倫理など）も受講が義務付けられており、受講率は100%である。

ほとんどの教員が科学研究費助成に関するFD講演会（「令和2年度科学研究費獲得に向けた講演会」）等に参加し、科学研究費助成の申請をしている。

ティーチングポートフォリオ（TP）を利用した簡易版・標準版TPの作成及び更新率は、教育学部80%、附属教育実践総合センター67%で、平均79%であった。

（根拠資料_令和2年度 簡易版対象者TP 入力状況）（根拠資料_標準版TP更新率、標準版TP作成率）
標準版TPについては、作成者に学部FD講演会にて講演してもらい情報共有を図った。

②学生への配慮、学生による授業アンケート、学生からの要望への対応

ラーニングポートフォリオ（LP）入力率は、令和2年度は100%であった。

（根拠資料 D_ラーニングポートフォリオ入力状況）

アンケート結果に基づいて、教員は授業の点検改善報告を行い（入力率100%を維持）、教育改善を行っている。また、TPを基にした教育改善に関する調査を行い「教員本位ではなく、学生本位に授業を組み立てることができるようになった」「学生の受講後の感想を次回の授業時にフィードバックするようになった」などの回答を得られ、学生の目線にたった授業づくりが行われている。

令和2年5月、教育学部教育改善委員会から「オンライン授業実施にあたっての配慮のお願い」が出され、「オンライン授業に関するアンケート」に300人以上の回答があり、その内容に基づき、授業についての配慮が要請された。

（根拠資料_オンライン授業実施にあたっての配慮のお願い）

遠隔授業

学生の負担感や要望を集計し、教育改善委員会から授業担当教員に配慮を求めた。

教員採用試験対策支援、教員志望率向上、学生の要望

教育学部の就職支援体制の中核組織として、教員就職支援室が設置され、有効に機能している。

(根拠資料_教育学部の就職支援体制(教員就職支援室)について、教育学部の就職支援体制(教員就職支援室)、「就職活動支援策の実施状況の検証と次年度の取り組み内容」、教授会報告(教採結果・支援)_教員採用試験対策講座、学長ヒアリングに係る報告書(教育学部)、就職に関する学長ヒアリング報告書、学部会議スクリーン資料「就職ヒアリング」201104_就職ヒアリングの教授会報告、教職が第一志望でなくなった理由自由記述の例 201008_就職に関する学長ヒアリング報告書補足資料(その2)、就職ヒアリング補足資料(教育学部)_就職に関する学長ヒアリング報告書補足資料、教育学部教員採用試験実績補完資料(修正版))

令和3年度の教員採用選考試験結果(令和2年度実施)、令和3年度に向けた教員採用選考試験対策について情報を共有した。また、教育関係臨時職員等の募集説明会を案内し、教職に向けた就職支援を実施した。

(根拠資料_現4年生への教採対策支援実績(2019-2020)、教員採用試験オリエンテーションの説明資料、令和2年度教育関係臨時職員等の募集チラシ)

模擬授業の練習場所・機会がないことに不安を訴える学生がいたために、教員就職支援室が中心となって「模擬授業相互評価ゼミ」を企画・実施した。

(根拠資料_教採対策支援シーズンⅡ模擬授業相互評価ゼミ)

大学入門科目(キャリア教育)において、教員志望率の向上に資する取組が行われた。

(根拠資料_キャリア教育2020 学生感想分析_キャリア教育(新入生)の効果(教員就職に対する不安の払拭)の事例)

③特別な支援を必要とする学生に対する支援

毎年、保健管理センターや学生支援室集中支援部門と連携し、個々に応じた支援を実施している。令和2年度は、対象学生1名については授業担当教員に依頼してオンライン授業での発言の代わりにチャット機能を用いさせる等の配慮を行った結果、無事単位を修得できる予定である。

④教員のキャリア開発

教育学部・学校教育学研究科では、2017年度より教育勤務未経験の教員に対して、自己の専門分野と今日的教育課題との接点を明確にし、今後の教育と研究、特に教員養成に繋げた指導力の向上を図ることを目的として教員のキャリア開発を行っている。附属学校園や代用附属学校において、授業実践や教育活動の実践、授業観察、公開研究発表会や公開授業研究会への参加、あるいは学校行事や各種教育活動への参加・観察等を30時間以上行う研修制度である。

「学校現場で指導経験のない教員の実践的指導力を向上させるための研修」を行っている。同研修は派遣される教員の教職に関する経歴に応じた研修プログラムを作成し、プログラム内容によって2～3年かけて研修を修了する。研修修了者には研究活動報告の提出が義務付けられている。

令和2年度は、研修修了予定の教員はなかった。平成元年度に修了した1名は学校で、主に出前授業(佐賀県内の公立小学校等において延べ12回)を行っている。平成30年度に修了した1名は県内のイベントの審査員(高校生の英語ディベート大会や、スピーチコンテスト等)、講習会などの講師(小・中・高等学校教員を対象)を行っている。

(根拠資料_2020年度研修個人記録_学校現場で指導経験のない教員のための研修実施回数、教員研修制度終了者の指導力向上事例_教員研修制度修了者の活躍状況、平成30年度教員研修報告_学校現場で指

導経験のない教員に対する附属学校等を活用した実践的指導力向上のための研修開催数や内容、平成 31 年度（令和 1 年度）教員研修報告）

大学教員による附属学校園での児童生徒への授業計画を策定するための試行として、同研修対象者が研修先の学校において児童生徒に対して授業を行う計画を立てたが、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止のため実施できなかった。

その他、教員派遣制度については、新型コロナウイルス感染症の拡大により、活動は停滞した。

小・中学校等での教職経験有する教員と上記研修を終えた教員を合わせた割合は、令和元年度の 41.3%（63 人中 26 人）から、令和 2 年度は 45.6%（57 人中 26 人）に上昇し、学校現場感覚に強い教員の活躍が期待できる。

（根拠資料_（経年変化）教育学部教職員名簿教職経験者_小中学校等での指導経験のある教員の割合）

⑤教育実践論文集

教育学部附属教育実践センターが発行する「教育実践研究」は、成果のあらたな公表機会や手段あるいはとして、大学の社会に対する説明責任、社会貢献の遂行手段ではあるものの、学部にも所属する教員のキャリア開発においても重要な機会と位置づけている。

⑥附属学校との共同研究

教育学部の教員は、4 附属学校園（附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校）の教員と共同研究を行う共同研究者を選定して学校教育に関する課題を研究している。その成果は教育実践論文集等に掲載されている。

（根拠資料_令和 2 年度附属学校園・代用附属学校担当共同研究者（研修対象者）_R2 年 5 月教授会資料、佐賀大学教育実践論文集（令和 2 年度）、学部附属共同研究実績報告書（令和 2 年度））

⑦教員公募

令和 2 年度は 6 件の公募を行った。公募要領の応募資格に、「小・中・高等学校での教職経験を有することが望ましい」（5 件）、「幼稚園（または各種保育施設）あるいは小学校での教職経験を有することが望ましい」（1 件）と記載し、学校現場における実践力の高い教員の着任につながっている。

（根拠資料_公募要領（小中学校等での指導経験のある教員））

また、女性研究者の増加を図る観点から「女性「優先」公募」も実施されている。

（根拠資料_女性「優先」公募_女性研究者の増加を図る観点から）

【学校教育学研究科】

①新カリキュラム

令和元年度に策定した新しいカリキュラムにより、教職大学院令和 2 年入学生から「教科教育の理論と実践」（1 年前学期）、「教育内容の開発 I（基礎）」（1 年後学期）、「教育内容の開発 II（発展）」（2 年前学期）を必修とした。「教科教育の理論と実践」には教育学教員 2 人、「教育内容の開発 I（基礎）」には教育学部教員 6 人が授業担当者として加わり、カリキュラムの高度化を図ることができた。

（根拠資料_教職大学院における実践的な教員養成カリキュラムの高度化（佐賀県教育委員会との連携））

②「異校種間実習」・「探求実習」など

教職大学院では、異校種での経験を活かすという趣旨で、授業実践コースの現職学生が「異校種間実習」を行い、例えば小学校教員が附属幼稚園で、中学校教員が附属小学校で、それぞれ実習を行い、幼小連携・小中連携の取組みに寄与している。

(根拠資料_令和2年度学生別探究実習計画一覧、探究実習計画及び実績一覧(子ども支援コース))

③「学力デザイン」

附属小・中学校の実践研究において、義務教育9年間の学習内容の拡大・深化と、児童生徒の学力との関係を各教科単位でモデル化した「学力デザイン」を作成している。それに基づいた、資質・能力の育成方策を令和2年11月の公開研究で提示し、広く研究成果の地域への還元を図った。

④「研究指導実施報告書」

毎年、教育研究指導が複数指導教員によって実施されていることを点検している。令和2年度も実施した。

(根拠資料_令和2年度：研究指導実施報告 一覧)

⑤FD・SD講演会

本教職大学院は、教育学部が主催するFD活動に、本教職大学院の教員も対象となる研修会・講演会に参加している。これらのことは、教員が自分自身の教育や研究に対する認識を見直す機会になり、その自己点検・評価の結果に基づいて学生に対する教育支援の改善を行っていることが窺える。

⑥個人評価活動実績報告、「授業点検及び改善目標」の作成

平成16年度より本学文化教育学部・教育学部で行っている「個人評価集計及び分析」を行っている。「組織的教學マネジメント体制を強化し、主体的に学び行動する学生を育成するための教育の質的転換を実質化する」という第3期中期目標・中期計画に即して、「学生による授業アンケート」結果に基づく「授業点検及び改善目標」の作成を行い、授業改善を図っている。

⑦学生の授業評価、「『学生による授業評価アンケート』組織別分析結果報告」

本教職大学院の教育学生専門部会が中心となって「『学生による授業評価アンケート』組織別分析結果報告」、及び「成績評価の分布の点検報告書(教職大学院)」を作成し、学校教育学研究科委員会に報告した上で、授業で出される課題のレベルや分量を調整したり、予習・復習の事項を具体的に伝えるように変更するといった形で、次年度に活かしている。

⑧学生の意見を聞く場の設定

授業や実習、学生生活等に関する学生の意見を聞く場を定期的に設定し、継続的な点検・評価、及び改善につなげている。学生と教員の懇談会・意見交換会を本教職大学院全体やコース毎において開催し記録化して教員全体で共有化を図っている。そこで出された学生の教育や施設に対するニーズや意見をコース・研究科運営委員会で把握・検討し、不断にカリキュラム改善につなげている。さらに、学生を対象とする修了時アンケートを行い、それを基に修了生が2年間で学べたこと・もっと学びたかったこ

とを取りまとめ、もっと学びたかったことについては教員間で共有して授業内容や実習での指導に反映するようにしている。

令和 2 年度、学生専門部会では、「オンライン授業による学生の負担感の軽減について」、問題点と改善点を審議事項としている。

(根拠資料_第 3 回学校教育研究科教育・学生専門部会議事録)

また、授業実践探究コースでは、令和 2 年度「学生からの意見」を収集し、情報の共有を行った。

(根拠資料_令和 2 年度後学期学生からの意見)

⑨その他

・令和 2 年度開講科目についてコースナンバリングを見直した。

(根拠資料_2020 年度コースナンバリング見直し)

・教員採用選考試験対策、支援への学生からの要望

遠隔授業に対する学生の負担感や要望を集計し、教育学生専門部会から授業担当教員に配慮を求め、さらに、学生の意見を教員に周知し、改善を図った。

(根拠資料_令和 2 年度教員採用試験対策講座報告)

・特別な支援を必要とする学生に対する支援

特別な支援を必要とする学生が在籍していないが、保健管理センターや学生支援室集中支援部門と連携し、個々に応じた支援ができる体制は整えてある。

また、学外向けの教職大学院パンフレットおよび募集要項を、障害学生の配慮に関する記述を追加する形で改訂した。

(根拠資料_教職大学院パンフレット)

・外部評価・第三者評価

本教職大学院の点検・評価及び外部評価に関しては、①年 1 回開催される佐賀県及び関係市町の教育委員会や学校関係者等を含めた佐賀大学大学院学校教育学研究科運営協議会における評価、②年に 1 回実施される教育学部と併せて行う外部委員による評価、を行っている。佐賀大学大学院学校教育学研究科運営協議会の外部委員は、佐賀県や市町の教育委員会や学校関係者及び連携協定を結んでいる西九州大学子ども学部へ委嘱し、履修課程、授業科目、実習科目等の学生の教育に関する事項、地域との連携に関する事項、実務家教員候補者選考の方法等に関する事項等に関する評価を行っている。合わせて、各コースから 2 年生が 1 名ずつ、そのコースにおける学生自身の学びについての発表を行う。学生の学修の様子を具体的に示しながら、本教職大学院のあり方、運営、教育内容・方法や指導体制の改善等について審議を行い、評価できる点や改善すべき点について協議を行い、明らかになった課題や要望を教育研究に関する取組に活かしている。

D. リカレント教育の推進

【教育学部】

教育学部の教員は教職大学院教員と共に佐賀県の教員研修・講習・勉強会等の企画・計画に関わると

ともに講師を務めており、地域の教員のキャリアアップに大きな貢献をしている。また、教員免許の取得を目指す科目等履修生を受け入れることにより、社会人のキャリアアップに貢献している。さらに、一般市民を対象とした講座や勉強会でも講師を務めている。

1) 教員研修・勉強会など

- ①本学部教員が「教員免許状更新講習」で多くの開講科目を担当している。
- ②本学部教員が、佐賀県教育委員会との連携協定に基づく事業（B. 地域連携による教育活動参照）において教員研修・勉強会等での講師やアドバイザーを務めている。

2) 科目等履修生の受け入れ

①科目等履修生

佐賀大学科目等履修生規程に定めるところにより、科目等履修生を受け入れている。

【学校教育学研究科】

修了生の教育実践や課題解決等の取り組みを研究論文として報告できるよう、修了生も本教職大学院の研究紀要に投稿可能としている。これにより修了生の新たな学び直しや地域還元が可能となるように継続的なサポート体制を組んでいる。また、年1回行われる研究成果発表会への参加を積極的に呼びかけ、教職大学院で学んだ「理論と実践の往還」の継続化を図ることにより、児童生徒や他の教師の成長や学習を支え、継続的な教育実践に貢献でき、実践研究の成果を修了生本人・学校・地域に還元することとしている。

（根拠資料_研究成果発表会ポスター2020）

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

- ・記載内容については、令和元年7月に大学改革支援・学位授与機構から示された「学系別の記載項目のガイドライン」を参照。
https://www.niad.ac.jp/evaluation/research_evaluation/kokuritikyoudou/kanren_h29/
- ・必須記載項目は大学機関別認証評価の領域5及び領域6と重複する部分があるため、Ⅲ－Ⅰの記載内容と関連させるなど記載の工夫が必要。

教育学部は、幼児・児童・生徒の心身の発達を長期的かつ連続的な視点から見据えることができる学校教員の養成を目指すため、小学校教員免許取得を基本としながらも、それぞれの専攻において異なる校種の免許を取得することを進めている。以下の免許取得状況から複数の学校種を連携する教育に対応できる教員の養成が行われていると考えられる。

【教育学部】

令和3年度佐賀県小学校教員採用試験（令和2年度実施）結果は、全合格者204名のうち本学の新卒者41名、既卒者15名、合計56名で占有率27.5%、第3期中期目標・中期計画策定時の佐賀県の教員採用計画110名に基づく占有率は50.9%であった。（根拠資料 M_R2 実施教授結果（校種・自治体別）、根拠資料 0_佐賀県占有率（小学校）の推移）

【学校教育学研究科】

教職大学院修了者20人のうち、現職教員修了者10人は現職復帰し、学部卒業直後に入学した一般学生10人は全員令和3年度教員採用試験に合格したことにより、教員就職率は100%となった。

（根拠資料_大学院等進学希望者及び大学院等在籍者の特例申請_教職大学院における特別猶予制度を活用した学生数（佐賀県教育委員会との連携）、令和2年度修了生進路_教職大学院修了者の教員就職率、令和2年度修了生の専修免許状取得状況）

A. 卒業（修了）時の学生からの意見聴取

【教育学部】

令和元年度の教育学部1期生卒業より、卒業予定学生と学部長の懇談会（意見交換会）を行っている。

【学校教育学研究科】

本教職大学院における独自の取り組みとしては、授業や実習、学生生活等に関する学生の意見を聞く場を定期的に設定し、継続的な点検・評価、及び改善につなげていることが挙げられる。学生と教員の懇談会・意見交換会を本教職大学院全体やコース毎において開催し記録化して教員全体で共有化を図っている。そこで出された学生の教育や施設に対するニーズや意見をコース・研究科運営委員会で把握・検討し、不断にカリキュラム改善につなげている。

学生を対象とする修了時アンケートを行い、学生が学びたかったことと感じていること・もっと学び

たかっただと思っていることなどを分析している。それを基に、学生のニーズに合致した教育内容であったか、教員としての資質向上に役立つものであったか等を各教員が点検し、次年度以降の授業内容や実習指導等に反映させるなどして、2年間の省察ができるようにしている。

(根拠資料_教育経営コース・意見交換会 20210311)

B. 卒業（修了）生からの意見聴取

【教育学部】

平成 29 年度に教員養成カリキュラム評価部会が行った文化教育学部卒業生へのヒアリング調査では、教育実践フィールド演習などの学校現場での実践的な教育力を養うカリキュラムが高く評価されている。このようなカリキュラムは教育学部でも強化・継続されており成果が期待できる。また、要望として特別支援教育に関する知識の必要性が挙げられている。教育学部においては幼小連携教育コース特別支援教育専攻の設置により、特別支援教育の充実が図られており、その効果が期待される。

【学校教育学研究科】

平成 30 年度から修了生を対象に、教職大学院で学んだことが活かされているかどうか、及び教職大学院への期待といった点を聞き取るためのフォローアップの聞き取り調査を実施し、継続してとりまとめを行っている。

令和 2 年度は、コロナ禍による訪問ができなくなったこともあり、オンラインでのアンケート調査に切り替えて行った。結果については体系的に分析し、学校教育学研究科紀要に掲載し、各教員の授業改善に役立てた。

C. 就職先等からの意見聴取

【教育学部】

平成 17 年度より実施している佐賀県教育委員会との意見交換会において、採用試験結果にかかわる情報交換のほか、教育学部卒業生に対する教員としての評価について意見を聴取してきた。加えて、令和元年度から、教育委員会や配属校等への調査に基づいて教育成果を確認を始めた。

令和 2 年度、佐賀大学教育学部学生・就職委員会は、R2 新任教員の資質・能力に対する管理職評価を行い、新任教員の評価・適応状況について相関分析を行った。

(根拠資料_令和 2 年度新任教員の資質・能力に対する管理職評価)

【学校教育学研究科】

修了生の赴任先の学校関係者・教育委員会等からの意見聴取等及び学習の成果・効果等の把握に関しては、次の方法をとっている。平成 30 年度から、前年度の修了生の現任校へ大学教員が出向き、修了生および現任校の管理職を対象に、教職大学院で学んだことが活かされているかどうか、及び教職大学院への期待といった点を聞き取るためのフォローアップの聞き取り調査である。最初の修了生が現場に出た平成 30 年度より実施している。単なる聞き取りにとどまらず、現在の教育実践上の課題の確認と、それに対する大学教員からの助言指導も併せて行うことで、赴任校等で継続的に教育実践・課題解決に貢献できるよう修了生をサポートしている。

令和 2 年度は、コロナ禍による訪問ができなくなったこともあり、修了生と同様にオンラインでのアンケート調査に切り替えて行った。この結果についても体系的に分析し、修了生の分析結果と併せて学

校教育学研究科紀要に掲載し、各教員の授業改善に役立てた。

(根拠資料_修了生追跡アンケート)

IV-I 研究に関する状況と自己評価（構成設定は部局の判断とする）

- ・例えば、第3期中期目標期間における4年目終了時評価の際に選定した「SS」水準の研究業績リストや、中期目標・中期計画進捗管理システムに登録した各年度の内容も参考にできると考えられる。これらの活用は部局の判断とする。
- ・何がどのように優れているか・改善すべきか等を自己評価する。必要に応じて、後掲「研究の水準の分析」の記述内容と関連させる。
- ・改善を要する事項については、別紙様式にその改善状況を記載すること。
- ・評価作業を効率化し、既存のデータ・資料の活用を図る観点から、参考までに以下のとおり示す。
 - ◎ 研究及びその資金獲得に関する第3期中期目標期間の中期計画・年度計画番号とその取組状況（進捗管理システムにデータ有り）
 - 計画番号【020～023】（研究水準及び研究の成果等に関する目標）
 - 計画番号【024～030】（研究実施体制等に関する目標）
 - 計画番号【061】（外部研究資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目標）

（1）教育学部・学校教育学研究科の研究目的と特徴

本学部・研究科の設置の経緯と特色

教育学部は、平成24年文部科学省より、教員養成系学部の「ミッションの再定義」による「設置目的の明確化と公的教育機関としての存在意義」を「見える化」しなければならない中で、佐賀県における教員養成課程を有する学部としての存在意義を明確に示すためには、佐賀県の教育課題解決に資する教員の養成こそがミッションであるとの考えから、平成28年度に教員養成に特化した「教育学部」として再出発した。

教育学研究科は、多様な教育ニーズへの対応、及び新たな学校づくりという地域における教育課題に対して、中心的な役割を担う高度な専門性と実践的指導力を備えた教員を養成することを使命とした学校教育学研究科（教職大学院）となった。佐賀大学の教員養成分野は、佐賀県教育委員会等との連携により、地域密着型を目指す大学として、義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担うとともに、佐賀県における教育研究や社会貢献活動等を通じて我が国の教育の発展・向上に寄与することを基本的な目標とし、実践型教員養成機能への質的転換を図ることを打ち出した。

本学部・研究科の研究の目的と特徴

教育学部および学校教育学研究科においては、教員の学術研究の水準を向上させ、その成果を学生の教育に活かし、さらにその成果を外部に発信して地域社会及び国際社会に貢献するという研究の基本方針とともに、教員養成学部として教員免許の課程認定を担う教員としての研究を行い、教員養成学部としての水準の向上と佐賀県を始めとする地方の教育界に寄与することを研究の目的とする。

研究の特色は、教員の専門性を尊重した学術的研究だけでなく、教育現場の諸課題を解決するための実践的研究、実践的なカンファレンス・事例研究、附属学校園あるいは地域の学校園との共同研究等、教育に関わる領域を広く網羅した多様な研究が行われていることである。学部は、教員の個人研究を俯瞰し体系的な情報発信を行うことにより、教育全般を通して地域貢献（特に、地域に資質の高い教員を送り出すこと）に

軸足を置いた研究活動を行なっている。

IV-Ⅱ 研究の水準の分析（研究活動及び研究成果の状況）（記述するかは部局の判断とする）

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

研究の実施体制及び支援・推進体制

1) 研究推進・論文編集委員会

学部室会議（執行部）に研究担当者（教育研究評議員）を置き、研究推進・論文編集委員会を設置し、学部・研究科教員の研究推進を行なっている。

研究推進・論文編集委員会は、科研費申請査読、競争的外部研究費への申請案内、学部研究論文集の編集を通じて、学部と研究科の研究推進に取り組んでいる。

2) 附属教育総合実践センター

附属学校園等、学内外の関係機関との連携のもとに、教育実践及び教育臨床に関する理論的・実践的研究及び指導を行い、教育実践の向上に資することを目的としている。

平成31年度は、実践総合センターの部門の改変、併任教員の増、学校教育学研究科担当教員の参画、規制の改正を行い、教育学部と学校教育学研究科及び附属学校園の協力体制の中心的な役割を担う体制を構築した。

また、学部・教職大学院・附属学校の三者の連携や共同研究を推進するために、学部・研究科の教員と附属学校園の教員との共同研究を推進し、支援する体制を構築した。センター運営委員会には附属学校園長が委員として出席し、研究推進の趣旨を理解し、管理職として附属学校園の研究推進を行っている。毎年1回発行している「佐賀大学教育実践研究（実践センター紀要）」は、研究論文、実践研究、実践報告に分類して、附属学校園の教員と学部・研究科教員の共同研究及び附属学校園教員の単独での投稿を推進している。附属学校園教員の「佐賀大学教育実践研究」への投稿数は、年度ごとに同じ水準で推移しており、投稿の習慣化が達成されてきていると判断している。

3) 学校教育研究科（教職大学院）

学校教育研究科（教職大学院）においては、学部・教職大学院・附属学校の三者が、学部及び教職大学院の実務業績を持つ教員と、教育業績を持つ附属学校教員が共同で研究発表会等を開催し、また教育学部附属教育実践センター紀要への共同研究論文の掲載等連携を推進している。教職大学院の研究的な実習科目の一部（探究実習）を附属学校園で実施し、実習大学院生と大学院教員及び附属学校園教員の3者が研究的な議論を行い、その結果を報告書にまとめている。

研究活動に関する施策／研究活動の質の向上

学部・研究科においては、研究活動を推進するために、研究推進方策、特色ある研究等の推進、学際的研究の促進、社会課題に関する研究を行っている。研究推進・論文編集委員会を設置し、学部・研究科教員の研究推進を行っている。

研究科では、2018年度から教育・研究活動に関する組織的な取組を発展させるために成果報告会に併せて県内教育関係者に向けてシンポジウムを開催している。

①査読制度

科研費申請の査読については、令和2年度は、9月に査読希望者（基盤研究B,C及び挑戦的研究、若手研究）の応募がされ、希望者5名に対し査読を行った。

（根拠資料_科研費等申請に向けたその他の支援の実施）

科研費の申請率・採択率をあげるため、ダイバーシティ推進室が作成した科研費作成ビデオの視聴をうながした。（ダイバーシティ推進室、

https://www.oedi.saga-u.ac.jp/initiative/2020_1st_reser_invi/）

②FD・SD講演会

令和2年9月、科研費申請に関するFD講演会（山津先生）を開催した。

（根拠資料_科研費説明会等の実施（科研費に関する情報提供を含む））

③人事方策、若手研究者の確保・育成、インセンティブについての取組

教育学部・学校教育学研究科ともに、研究推進におけるインセンティブの付与として、上位昇給の推薦において研究分野の業績を重視し、グループ代表者会議で審議した後に推薦を行うこととしている。

（根拠資料_教育職員の上位昇給及び勤勉手当について）

学校教育学研究科では、教員間の業務量の偏りによる教員個人への業務過剰負担を防止するために、各教員の授業をはじめとした業務内容と業務量の比率を見定めた調整を行っている。

（根拠資料_ダイバーシティ_労働環境の整備に資する研究環境の整備方策）

令和2年度、科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」事業の一環として、成松准教授に研究活動費支援の交付が決定された。

（根拠資料_研究活支援_女性研究者の研究活動支援）

研究資金

教育学部への寄付金としては、教員の個人研究に対する寄付に加えて、教科教育講座に対する教育研究助成、健康スポーツ科学講座に対する教育研究助成、附属教育実践総合センターに対する教育研究助成、理数教育講座に対する教育研究助成、実技系グループに対する教育研究助成等、各グループの教育研究助成を受給している。また、附属学校園の教育研究への寄付が多い。

教員により科学研究費の獲得が行われている。また、件数は多くないが（教員数4名）、共同研究受け入れ件数は令和2年度は4件（企業から3件）であった。2名の教員の共同研究受け入れ金額は150万円であった。教員による科学研究費の獲得件数のさらなる増加は課題である。

地域・附属学校との連携による研究活動

1) 佐賀県教育委員会との連携

B. 地域連携による教育活動

1) 佐賀大学教育学部、佐賀大学大学院学校教育学研究科及び佐賀県教育委員会との連携・協力協議会 を参照

2) 佐賀県教育委員会（佐賀県教育センターを含む）のプロジェクト研究

佐賀大学教育学部の多くの教員が助言指導で携わっており、地域の教育領域の研究推進をサポートしている。

具体的な取組は、佐賀大学教育学部、佐賀大学大学院学校教育学研究科及び佐賀県教育委員会との連携・協力協議会令和元年度第2回資料（令和2年度連携・協力事業の確認）、令和2年度第1回（令和2年度連携・協力事業の実施計画）、令和2年度第2回（令和2年度連携・協力事業の実施状況の報告及び今後の取組）、で参照できる。

3) 附属学校との連携

毎年、幼小連携イベント、授業研究会を実施し、地域のモデル校として、研究の成果を研修会や研究発表会において公開することにより地域に還元を行っている。

研究授業参観及び授業研究会における助言、教育実践フィールド演習ⅡまたはⅢに係る共同私道指導、要項審議に関わる研究会（指導案検討を含む）が活動の代表的なものであり、特に授業研究会は公開され、令和2年度はオンラインによる配信効果もあり、日本全国からのアクセスがあった。

①アンケート

令和2年11月12日の附属小公開研アンケートでは、「授業の手法や研究の考え方が参考になった」に「とてもそう思う」81%、「自分の実践に取り入れてみたい」に「とてもそう思う」回答62.5%と高い回答があり、児童の学びの姿勢や授業手法が、高い評価を得た。

（根拠資料_2020年度附属小公開研究アンケート集計まとめ_地域のモデル校としての地域への成果の還元状況（研修会等への参加者数、満足度））

11月26日の公開研究会では「自分の実践に取り入れてみたい」に「とてもそう思う」73%と高い。初認を含む若手教員対象であったことから、日常の授業実践や、教科教育研究への還元されていく可能性がある。

一方で、過去の研究成果が浸透していないことも回答数値から浮かび上がったので、地域の教育実践のニーズに多面的に応えられるよう、研究成果の発信の在り方を検討していく必要があり、年度末開催の学部・小中企画委と合同研究会で検討し、次年度計画立案を行う。

11月7日の附属中公開研アンケートでは、生徒主体の学習活動の具現化に高い評価が寄せられた。「自分の実践に取り入れたい」とする回答も7割近く、参加者のニーズに幅広く答えたことが見える。オンラインによって新たな参加者を得たことも成果である。附属小と同様、地域に研究成果をどのように発信していくかが、今後の検討課題である。学部・小中企画委と合同研究会で次年度に向けた協議と立案を行う。

（根拠資料_2020年度附属中公開研究アンケート集計・分析資料_地域のモデル校としての地域への成果の還元状況）

これらのアンケート結果を踏まえて、下記二点について重点的に取り組むことにした。

佐賀県教育委員会との連携

佐賀県教育委員会が行っている研究発表会における地域の抱える教育課題も踏まえて、毎年、附属小中教育研究発表会を企画するなど、地域の教育課題の策定と「地域への還元」のより具体的な仕組みを

強化し、検証、改善、学部・大学院・実践センターの連携体制の改善を図る。

各学校の教育研究を支援

附属学校園や地域の学校とも連携し、助言指導等も含めて、各学校の教育研究を支援し、学校現場の教育・研究力の向上に貢献する。

②小中接続型教育プログラムの開発

令和2年度は、平成30年度に策定した12教科等の「資質・能力デザイン」を用いて研究を進めた。

小学校のみの教科である生活科、中学校のみの教科である技術・家庭科（技術分野）を除く10教科等（国語科，社会科，算数・数学科，理科，音楽科，図画工作科・美術科，体育科・保健体育科，家庭科/技術・家庭科（家庭分野），外国語（活動）科・英語科，学校保健（保健学習））で小中接続型教育プログラムについての研究を実施した。

（根拠資料_2020年度附属小中研究紀要「資質・能力デザイン資料」_幼小・小中の接続型教育プログラム10科目の開発、2020年度附属小中研究紀要「研究概要」_3年計画で行った附属小・中学校の実践研究のまとめ（抜粋））

生活科，技術・家庭科（技術分野）については、「資質・能力デザイン」を用いた接続型教育プログラムとは異なる視点で研究を進めた。

接続型教育プログラムは11月の附属小学校・中学校研究発表会において公開された。参観者から、「授業の手法や研究の考え方が参考になった」に81.0%が「とてもそう思う」、「自分の実践に取り入れてみたい」に62.5%が「とてもそう思う」との回答があった。11月7日の附属中学校公開研究会で実施したアンケートでは、「自分の実践に取り入れてみたい」に7割近くが「とてもそう思う」と回答した。これらの結果から、地域の小中学校での活用が期待される。次年度は具体的な活用実態についての調査を実施する。一方で、過去の研究成果が浸透していないことが明らかになり、地域の実情に合った教育実践のニーズを把握することや、研究成果の発信方法について検討をすることが今後の改善課題である。

研究成果の発信／研究資料等の共同利用

本学部・研究科の研究では、教育現場の諸課題に対応し課題を解決するための実践的研究を実施し、特に、その成果を地域の教育の向上のために発信している。

1) 教育学部

①幼小・小中の接続型教育プログラム10科目の開発

（根拠資料_2020年度附属小中研究紀要「資質・能力デザイン資料」_幼小・小中の接続型教育プログラム10科目の開発）

②附属学校等で実施されている授業研究会の公開

2) 学校教育学研究科

研究活動の県内教育界への発信

佐賀県教育委員会と佐賀大学教育学部・学校教育学研究科との連携・協力協議会において、本教職大

学院の研究活動の取組について、全県下の学校に周知されるようにしている。毎年2月に開催している佐賀大学大学院学校教育学研究科研究成果発表会は県内教育関係者へも案内しているほか、研究成果発表会において、研究科の研究成果報告を含めたシンポジウムを開催している。また佐賀大学大学院学校教育学研究科研究成果発表会の発表要旨集と佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要（CD）を、教職大学院協会に加盟している国内の教職大学院、佐賀県教育委員会、教育事務所、県教育センター、市町教育委員会、連携協力校などの関係機関約150箇所に配布しているほか、佐賀大学機関リポジトリに登録し、無料での閲覧を可能にしている。

学術コミュニティへの貢献

教育学部・学校教育学研究科ともに学術コミュニティへの貢献に協力している。

学部・研究科の主催は本期間中には実施していないが、いくつかの学際的なフォーラムや研究会に加えて、地域貢献としてフォーラムや研究会等の開催があれば、学部が積極的に支援する。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

- ・記載内容については、令和元年7月に大学改革支援・学位授与機構から示された「学系別の記載項目のガイドライン」を参照。

https://www.niad.ac.jp/evaluation/research_evaluation/kokuritikyoudou/kanren_h29/

【海洋エネルギー研究センター】

- ・共同利用・共同研究拠点である海洋エネルギー研究センターにおいては、共同利用・共同研究の実施状況についても記述する。
- ・例として、中期目標・中期計画実施本部が中心となって作成している「自己点検・評価書」の該当箇所や、本学の中期計画・年度計画（進捗管理システムの登録内容）の該当部分、役員会指針4に基づき「総合研究戦略会議」が実施する評価、文部科学省「研究活動状況調査」等のデータも参考にできると考えられる。これらの活用は部局の判断とする。

論文・著書・特許・学会発表など

		2018年度	2019年度	2020年度
専任教員数		58	63	61
著書数	日本語	11(1)	14(0)	9(0)
	英語	0(0)	0(0)	0(0)
査読付き論文数	日本語	6	16	11
	英語	11	12	21
学会発表数		48	35	48
作品等の数		16	17	8
その他		56	67	6

本学部・研究科の研究の特色は、学術的研究だけでなく、教育現場の諸課題に対応し課題を解決するための実践的研究、実践的なカンファレンス・事例研究、さらに附属学校園、あるいは地域の学校園との共同研究等、多くの研究が行われていることにある。

1) 「学術論文」の総数は令和2年度は、107報であった。査読付き論文数が33報、その内訳は、英語で執筆されたものが21報、日本語で執筆されたものが12報で、英語での執筆が増えた。教育学部には、学部内に専門領域の教員が1人という場合がほとんどであり、「単著」は多く39報であった。

2) 教員養成に資する研究

① 教師へのとびらのテキスト発刊

「教師へのとびら」の次年度以降のカリキュラムを充実させるために、実施回数・実施方法の見直しを行うとともに、教師へのとびらのテキストを開発した。(2020年3月)

(林裕子監修、竜田徹著『カラー図解 よくわかる! 教師を目指すための高大接続のしくみ』東京書籍、2021年3月28日刊)

(根拠資料_継続・育成型高大連携カリキュラムの実施数と成果検証(令和3年3月))

3) 地域の教員養成に資する研究

①継続・育成型高大接続カリキュラム「教師へのとびら」の実証的開発研究

B. 地域連携による教育活動

3) 地域の教員養成に資する研究

【教育学部】 (高大連携の活動)

参照

V-I 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価（構成設定は部局の判断とする。）

- 例えば、大学機関別選択評価事項B（地域貢献活動の状況）及びC（教育の国際化の状況）の基準・観点や、中期目標・中期計画進捗管理システムに登録した各年度の内容も参考にできると考えられる。これらの活用は部局の判断とする。
- 何がどのように優れているか・改善すべきか等を自己評価する。
- 改善を要する事項については、別紙様式にその改善状況を記載すること。
- 評価作業を効率化し、既存のデータ・資料の活用を図る観点から、参考までに以下のとおり示す。
 - ◎ 国際交流及び社会連携・貢献に関する第3期中期目標期間の中期計画・年度計画番号とその取組状況（進捗管理システムにデータ有り）
 - 計画番号【031～037】（社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標）
 - 計画番号【038～042】（グローバル化に関する目標）

教育学部・研究科ともに数は多くないものの、積極的に国際的な共同研究とその推進に努めている。教員の専門領域による共同研究に加えて、教育に関するフォーラム等、質的にレベルの高い研究が継続して行われている。主な実績（査読ありの論文）は以下の通りである。

1) 海外研究者との共同研究

① 国際的な学会誌への掲載

教育学領域学術論文

【学校教育学研究科】

- Tsukawaki, R., & Imura, T., Psychological Reports
「Students' perception of teachers' humor predicts their mental health」
- Tsukawaki, R., & Imura, T., Current Psychology
「Incremental validity of the dual self-directed humor scale in predicting psychological well-being: Beyond the big five personality traits and four humor styles」
- Takashi Kawakami, Shigekazu Komeda, Akihiko Saeki, International Community of Teachers of Mathematical Modelling and Applications
「The Case of Year 8 Students, International Community of Teachers of Mathematical

教科専門領域学術論文

【教育学部】

- 江尻典雄、庄田敏宏、Mathematics, 8, 10, 1693 (2020)
「The existence of rG family and tG family, and their geometric invariants」
- R. Arnold, H. Ohsumi, et al., Nuclear Physics A 996 (2020) 121701

- 「Search for the double beta decay of ^{82}Se to the excited states of ^{82}Kr with NEMO3」
- A. V. Rakhimos et al., *Radiochemica Acta*
「Development of methods for the preparation of radiopure ^{82}Se sources for the SuperNEMO neutrinoless double beta decay experiment」
 - Tomoko Kayashima, Koji Nagao, Mituki Umino, Hiroko Kaikiri, Sachi Shibata, Kiminori Matsubara, *Bioscience, biotechnology, and biochemistry*
「Anti-stress effects of rosemary (*Rosmarinus officinalis* L.) leaf extract on intestinal goblet cells and immobility of forced-swimming test in BALB/c mice.」
 - Toru Ishihara, Toshihiro Nakajima, Koji Yamatsu, Koichi Okita, Masato Sagawa, Noriteru Morita, *NPJ Science of Learning*
「Longitudinal relationship of favorable weight change to academic performance in children」
 - Toru Ishihara, Toshihiro Nakajima, Koji Yamatsu, Koichi Okita, Masato Sagawa, Noriteru Morita., *Scandinavian Journal of Medicine & Science in Sports*
「Relationship of participation in specific sports to academic performance in adolescents: A 2-year longitudinal study」
 - Keiko Kitagawa, Koichiro Ohgushi, Takenori Hino, Toshinobu Ikegami, *Disasters Journal of Asian Association of Crisionomy*
「Shelter Environment of Avoiding the Infectious Diseases in the Event of Complex Disasters」
 - Ayaka ARAKAWA, Motonobu HIDAHA, *Clinical Neurophysiology*
「Autistic and sensory traits associated with mismatch negativity in intonation processing of Japanese homonyms」
 - Motonobu HIDAHA, Shintaro SUGINO, Masaki TAKASHIBA, Ayaka ARAKAWA, Hidehiko MATSUMOTO, Kentaro TANAKA, Takashi Morotomi, *Clinical Neurophysiology*
「Clinical neurophysiological understanding of autism spectrum disorders: Examinations on the effect of imitation therapy and atypical intonation processing by EEG and ERPs」

【学校教育学研究科】

- Tsukawaki, R., & Imura, T., *International Journal of Psychological Studies*,
「Relationship between types of forced laughter and mental health: Mediating effects of social support and self-concept clarity」
- Tsukawaki, R., & Imura, T., *Personality and Individual Differences*,
「The light and dark side of self-directed humor: The development and initial validation of the dual self-directed humor scale」
- Tsukawaki, R., & Imura, T., *Social Behavior and Personality*
「Humor moderates the relationship between the extent to which people self-isolate and their depressive symptoms during lockdowns.」
- Tsukawaki, R., & Imura, T., *Current Psychology*
「Incremental validity of the dual self-directed humor scale in predicting psychological

- well-being: Beyond the big five personality traits and four humor styles]
- Kashimura, M, Ishizu, K, Shimoda, Y., Journal of Nippon Medical School
「Factor Structure and Psychometric Properties of a New Scale to Assess Alexithymia-Like Features in Japanese Youth」
 - Shigekazu Komeda, Takashi Kawakami, Masafumi Kaneko, Takashi Yamaguchi、International Community of Teachers of Mathematical Modelling and Applications
「Deepening and Expanding Mathematical Models of Speed in Relation to Walking: The Case of Year 8 Students」
 - Ito, K., Ogino, R., Hiyama, A., & Hirose, M. Healthy and Active Aging,
「Evaluating Seniors’ Virtual Reality Experience Performed at a Local Community Event in Japan. Human Aspects of IT for the Aged Population」
 - Mai Takase, Ryogo Ogino, Keishiro Yoshida, Hikari Kusu, Tetsuya Kenmochi, Jun Goto, Geriatrics
「Qualitative Research on the Primary Effect of Fish Pet Ownership Using the Bottleium, a Bottle-Type Aquarium, on Community Dwelling Older Adults in Japan: A Potential Preventive Measure Towards Social Isolation」

以上、教育学領域の国際論文への掲載数は多くないものの、教員ごとに専門領域についての論文が多く執筆されている。

②国内学会誌への掲載

教育学領域学術論文

【学校教育学研究科】

- 下田芳幸, 寺坂明子, 石津憲一郎, 大月 友, 稲田尚子, 心理臨床学研究
「小中学生を対象とした学級単位でのアンガーマネジメント教育の研究動向」
- 井邑智哉・岡崎善弘・高村真広・徳永智子, 時間学研究
「児童用時間管理尺度の開発と信頼性・妥当性の検討」

教科専門領域学術論文

【教育学部】

- 山津幸司, 九州地区国立大学教育系・文系研究論文集
「新型コロナウイルス感染症蔓延初期の大学体育の開講状況 : 九州地区国立教員養成大学・学部開講授業の分析結果からの考察」
- 谷口高志, 白居易研究年報
「白居易の音楽愛好——詩文に語られる感性と嗜好——」

【学校教育学研究科】

- 中川友理絵, 荻野亮吾, 日本地域政策研究
「日本の高等教育における地域と連携した学習 (Community-Based Learning) の研究動向」
- 荻野亮吾, 日本公民館学会年報

「With コロナ時代における地域のつながりづくりの方法」

- ・似内 遼一, 荻野 亮吾, 梅本 大輔, 松村 優, 櫻井 理加, 細萱 一立, 遠藤 良顕, 福祉のまちづくり研究

「郊外住宅地に住む高齢者の外出を維持する地域戦略のあり方に関する一考察」

- ・中島俊思・大西将史・辻井正次, 心理臨床学研究

「NICU 入院経験のある低出生体重児の親向け集団精神療法プログラムの開発」

以上、国際論文と同様、教育学領域の国内学会誌の掲載数は多くないものの、教員ごとに専門領域についての論文が執筆され、その研究遂行能力は、教育学部の正課あるいは教員養成に多大な好影響を及ぼしている。

②国際共同研究

- ・サンパウロ大学（ブラジル）【教育学部_庄田准教授】（再掲）

「3 重極小局面に関する研究」

サンパウロ大学、NEMO（フランス研究機関）との共同研究の成果が国際的な学会誌に掲載されている。庄田敏宏氏も関わる九州大学マス・フォア・インダストリー研究所の小磯深幸氏とサンパウロ大学（ブラジル）の Paolo Piccione 氏との共同研究で、研究内容は、界面活性剤の膜の数学的モデルである三重周期極小曲面の変形族の存在を証明したものである。代表的な研究成果はフランスの有名国際誌に掲載された。

- ・NEMO（フランス）【教育学部_大隅教授】（再掲）

「ニュートリノに関する共同研究」

- ・R. Arnold, H. Ohsumi, et al., Nuclear Physics A 996 (2020) 121701

「Search for the double beta decay of ^{82}Se to the excited states of ^{82}Kr with NEMO3」

- ・A. V. Rakhimos et al., Radiochemica Acta

「Development of methods for the preparation of radiopure ^{82}Se sources for the SuperNEMO neutrinoless double beta decay experiment」

- ・オハイオ州立大学（アメリカ合衆国）【山津准教授】

「日米の大学生の携帯電話利用についての調査研究」

- ・アクロン大学（アメリカ合衆国）【日高講師】

「心理特性尺度の開発研究」

- ・バーミンガム大学【林裕子准教授】

本研究はC B T（Computer-Based Testing）形式の談話完成タスク問題を用いた発話自動採点システムを構築し、その予測精度（人手評価との一致率）の検証を通して、同システムによる英語発話能力の評価・測定、並びに出題するタスクや評価基準の精査と設定を行うことを目的としたものであり、外国語教育に加え、言語テストや教育学に精通した研究者との共同で、妥当性・信頼性の高い自動評価とその継続的な実施体制の構築に取り組んでいる。

- ・国立台湾師範大学（台湾）【山津准教授，井上教授】

「ICT を用いたスポーツ指導に関する研究」

- ・中国科学院（中国）【高島准教授、研究分担者】

「エディアカラの海での気候激変と動物進化の因果関係の解明」

(国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 B) 2018-2022)

(根拠資料_海外研究機関との共同研究の実施状況調査と継続・拡大の検討)

以上、学術論文の掲載一人、国際共同研究の状況を記した。学術論文については、査読付き論文ではないものの、多くの教員が論文を執筆している。教育学部は理学部、工学部、医学部あるいは農学部と異なり、専門領域の知識と技能のみならず、思考力・判断力・表現力などの認知能力が必要であり、査読の有無にかかわらず、研究遂行の過程で身につけてきた各教員の連携による総合力が重要であることを付け加えたい。また、国内においても共同研究が行われており、その研究内容は、学問分野の発展のみならず、地域に貢献できる内容が豊富であることも評価できる。

2) 社会連携・貢献

①教員採用試験対策講座

教育学部の社会貢献の第一は、地域の学校に優秀な教員を排出することである。教員採用試験対策講座はその代表である。教員就職支援室の主導により、令和2年度卒業予定者に対して、令和1年12月～令和2年8月にかけて小論文・自己PR文の添削、面接指導、模擬授業指導、体育実技、英会話などの二次試験対策に重点を置いた教員採用試験対策支援を実施し、全教員が指導に参加した。

今年度前学期は新型コロナウイルスの影響によって実施内容の変更・調整を余儀なくされたが、Webと対面を組み合わせることで、前年度並みの支援を実施することができた。令和2年度後学期から令和3年度卒業予定者への教員採用試験対策支援を開始する。

取組の一環として、佐賀県の学校現場の魅力を伝える取組を実施している。

教員就職支援室の主導により、前学期は1年生と4年生に対して教職経験者による講話をWeb配信した。後学期は1年生に現職教員による講話を、3年生に教職経験者による講話をWeb配信した。

②地域への社会貢献

佐賀県内のNPO法人と介護予防事業等について連携を進めている。

VI-I 組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と自己評価（記述するかは部局の判断とする。）

- ・例えば、認証評価の基準・観点や中期目標・中期計画進捗管理システムに登録した各年度の内容も参考にできると考えられる。これらの活用は部局の判断とする。
 - ・何がどのように優れているか・改善すべきか等を自己評価する。
 - ・改善を要する事項がある場合、別紙様式にその改善状況を記載すること。
- ・評価作業を効率化し、既存のデータ・資料の活用を図る観点から、参考までに以下のとおり示す。
- ◎ 組織運営・施設に関する第3期中期目標期間の中期計画・年度計画番号等とその取組状況(進捗管理システムにデータ有り)
- 計画番号【053～060】（業務運営の改善及び効率化に関する目標）
 - 計画番号【061～064】（財務内容の改善に関する目標）
 - 計画番号【065～066】（自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標）
 - 計画番号【067～072】（その他業務運営に関する重要目標）
 - 「年度評価実施要領」【101～107】（共通の観点）

部局等評価においては分析しない。

VI-Ⅱ 明らかになった課題等（本学職員以外の者による意見を含む）に対する改善の状況又は改善のための方策

（記載は各部局必須とし、記載場所は部局の判断とする）

なお、別紙様式【「平成31（令和元）年度学部等の自己点検・評価書」に基づく改善すべき点とその改善状況及び「令和2年度学部等の自己点検・評価書」に基づく新たな改善すべき点一覧】は、令和4年2月の質保証統括本部会議、役員会において、協議、検証するため、別途提出を要する。

令和2年度学部等の自己点検・評価書に新たに「改善すべき点」として記載するもの	左記の令和2年12月までの改善状況
教員の年齢構成において、高齢層と若年層との均衡を図る必要がある。	人事計画を作成し、年齢構成の平坦化に努めている。
佐賀大学教育学部における教育課程点検・改善実施要項及びPDCAサイクルを制定・運用し、手順について必要であれば改善に努める必要がある。	佐賀大学教育学部における教育課程点検・改善実施要項及びPDCAサイクルを制定し、運用している。
教員の活動の質の向上に向けて、個人評価様式2,3と教員活動データベースとの関係を検討し、教育研究の向上に資するための簡潔明瞭な点検・改善の仕組みを構築する必要がある。	学部及び研究科の目的と整合させるように、教育学部・学校教育学研究科企画評価委員会で、教員活動データベース、個人評価様式2,3、自己点検・評価書、個人活動報告書、学部附属共同研究実績報告書、教員の研究業績データ、の取り扱いについて一定の整理を行った。
履修指導、生活支援の充実に向けて、ラーニング・ポートフォリオの意義を確認し、指導や助言体制の充実を図る必要がある。	チューター制度及びラーニング・ポートフォリオ入力の体制については、新たに具体的な案が提示され、検討が行われている。
平成30年度と比べチューター指導率が低下している。	同上
学年進行とともに教員希望率が低下している。また、平成28年度から平成31年度にかけ、入学時の教員希望率が低下している。	教育学部の就職支援体制（教員就職支援室）を充実した。教員就職支援室において、教員採用選考試験対策、キャリア教育（教員就職に対する不安の払拭）、模擬授業相互評価ゼミ、教職が第一志望でなくなった理由や就職先管理職の評価の分析、卒業生や現職教師の話聞く機会の設定、卒業生・修了生進路調査、など活発な取組により、教員志望の動機付けへの効果が上がった。
科研費申請率のさらなる向上と、採択に結びつく申請書の書き方等のスキルをさらに向上させる必要がある。	2年連続で科研費申請を行わなかった教員に対して、翌年の研究費を支給していない。教育学部・学校教育学研究科においては年1回の特別昇給、年2回の期末手当の増額の判定に際し、実績を評価している。
一般入試に令和2年度より「特色加点制度」を導入する。	令和2年度より「特色加点制度」を導入した。
「主体的で対話的で深い学び」とアクティブ・ラーニングの関係など、双方の共通課題を見出し、共同研究を促進するなど、学部と附属学校園一体となった研究を推進する必要がある。	学部と附属学校園との協働により、学校現場で十分な指導経験のない教員のための研修を実施し、研修を終えた教員が現場で活躍していることを確認した。
学校現場で指導経験のない教員に附属学校等を活用した実践的指導力向上のための研修をさらに充実する必要がある。	上記の効果が上がっているため、毎年度、継続して実施していく予定である。
卒業生の佐賀県における小学校教員の占有率を高めるため、教員採用試験対策講座等をさらに充実する必要がある。	教員就職支援室を中心とした体制が完成し、効果が上がっているため、教員採用試験対策講座の充実、教育関係臨時職員等募集への充実への努力を行う。

卒業生に占める教員就職率の向上を目指して、ラーニングポートフォリオの活用、各データ分析などを通じた学生の教員採用試験への意識付けをさらに促進することが必要である。	教職の大変さを教職への魅力に変える取組を充実する。上記「教員希望率が低下」の項目の取組も参照。
地域との連携協議を進めるための連絡協議会の活動を充実し、学部教育にフィードバックすることが求められる。	連絡協議会の活動の活動を学部に共有し、例えば、教員採用選考試験対策と同様、学部の全教員による参画も考えられる。

令和3年度学部等の自己点検・評価書に 新たに「改善すべき点」として記載するもの	左記の令和3年12月までの改善状況
教員の年齢構成において、高齢層と若年層との均衡を図る必要がある。	
科研費申請率のさらなる向上と、採択に結びつく申請書の書き方等のスキルをさらに向上させる必要がある。	
小中学校等での指導経験のある教員の割合の向上を目指す	
学校現場で指導経験のない教員には附属学校等を活用した実践的指導力向上のための研修を進める	
卒業生の佐賀県における小学校教員の占有率を引き上げる	
卒業生に占める教員就職率の引き上げを図る	
附属学校園を地域のモデル校として機能させ、その成果を地域に還元する	
佐賀県教育委員会との連携をさらに深め、学部及び大学院教育にフィードバックする仕組みを構築する。	
地域連絡協議会との連携を進める。	
引き続き、佐賀県及び周辺地域の教員需要、本学の教員採用状況の分析を行う	